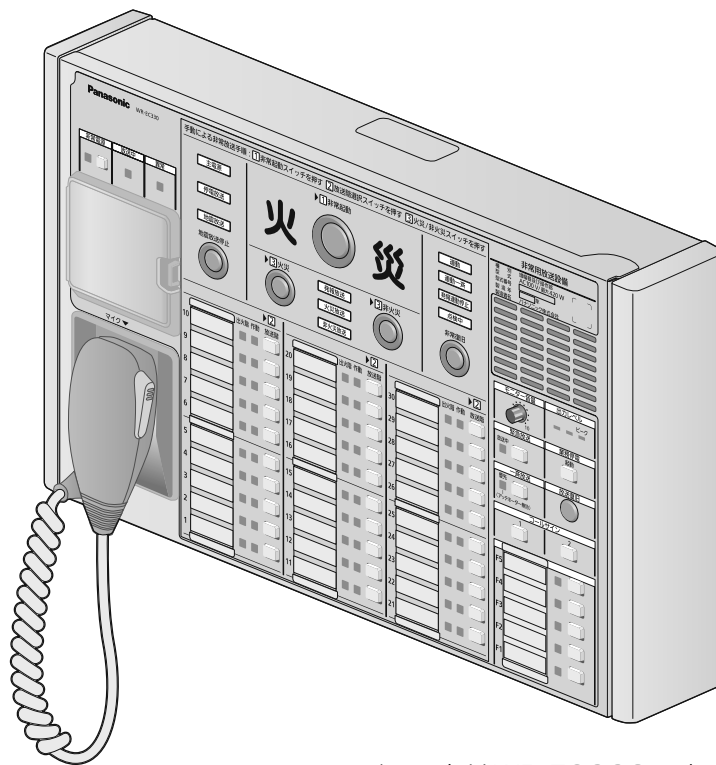


取扱説明書

工事説明付き

壁掛形非常リモコン

品番 WR-EC310, WR-EC320, WR-EC330



イラストはWR-EC330です。

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（6ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

本機は、壁掛形非常用放送設備（以下、本体）WK-EK310/EK320/EK330用の非常リモコンです。

本体に接続することにより、非常放送以外に、緊急地震放送、緊急放送、業務放送が行えます。

- ・ WR-EC310は10局、WR-EC320は20局、WR-EC330は30局です。本機は本体の局数と同じ局数の機種のみ接続が可能です。
- ・ 本体に接続可能な台数は、最大4台です。
- ・ 非常放送時には、音声により操作方法を指示する操作指示ガイダンスと、操作場所を表示灯で示す操作指示灯により、非常放送時の機器操作を支援します。
- ・ 非常リモコン通信点検、スピーカー回線短絡異常、非常／業務放送兼用マイク（本体マイク）異常、PA（電力増幅ユニット）異常、コンピューター異常の自己診断機能付です。

付属品をご確認ください

取扱説明書（工事説明付）本書 1冊
「非常放送のしかた」手順書 1枚

保証書 1式

以下の付属品は、設置工事で使用します。

マイクロホン（本体マイク用） 1個
型紙 1枚
ゴム足 4個

束線バンド 1本
グロメット 1個

免責について

この商品は、感知器などからの信号を受信した場合に非常放送を放送する設備であり、この商品単独で避難誘導するものではありません。

弊社はいかなる場合も以下に関して、一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、拡声できないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の点検が適切に行われていない結果、発生した損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

オープンソースソフトウェアについて

Revised 3-Clause BSD License for ColumbiaUniversity Kermit Software

Copyright © 1981-2011,

Trustees of Columbia University in the City of New York.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of Columbia University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



重要 : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



: 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

ご使用前に

ご使用前に

はじめに	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
著作権について	3
記号について	3

安全上のご注意	6
---------	---

使用上のお願い	7
---------	---

各部のなまえと働き	8
-----------	---

操作

操作

放送の種類について	13
-----------	----

非常放送のしかた	14
----------	----

非常放送のしかた（1）感知器起動	15
------------------	----

非常放送のしかた（2）感知器起動	16
------------------	----

非常放送のしかた（3）非常電話・発信機起動	17
-----------------------	----

非常放送のしかた（4）手動起動（発報）	18
---------------------	----

非常放送のしかた（5）手動起動（火災）	19
---------------------	----

緊急地震放送について	20
------------	----

緊急地震放送とは	20
----------	----

緊急地震放送の動作	20
-----------	----

緊急地震放送を行っているときの非常放送について	21
-------------------------	----

緊急放送のしかた	22
----------	----

業務放送のしかた	23
----------	----

相互通話のしかた	24
----------	----

日常点検	25
------	----

電源の点検	25
-------	----

異常時の表示について	25
------------	----

故障かな!?	26
--------	----

設置・工事

必要なとき

設置・工事	
工事説明	27
付属品をご確認ください	27
設置上のご注意	27
設置のしかた	29
壁面に取り付ける場合	29
マイクロホンの接続	31
卓上に置く場合	31
本機をラックに収納する場合	32
接続のしかた	33
線種と線径について	33
配線と結線について	33
本体との接続	34
ライン入力接続	37
設定・動作確認	38
内部の設定	38
接続点検と電源投入	39
表示カードの取り付け	40
非常放送の動作確認	41
業務放送の動作確認	42
保守点検	43
自動点検について	43
電源の点検	44
異常時の表示について	44
必要なとき	
仕様	45
保証とアフターサービス	46

安全上のご注意

必ずお守りください

ご使用前に

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告



工事は販売店に依頼する

工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

質量に耐える取り付けをする

落下や転倒によるけがや事故の原因となります。

- 十分な強度に補強してから取り付けてください。

設置の説明にしたがって壁にしっかり取り付ける

けがや事故の原因となります。

電源は非常用放送設備に接続する

指定外の接続をした場合、非常時に適切な避難誘導が行えない原因となります。

決められたヒューズを使う

火災の原因となります。

定期的に点検をする

非常時に適切な避難誘導が行えない原因となります。

- 点検は、販売店や保守契約店に依頼してください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる

煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- 直ちに販売店に連絡してください。



禁止

周囲にものを置かない

非常時の操作を妨げる原因となります。

- 指定範囲は常に整理、整頓してください。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに販売店に連絡してください。

雷のときは工事、配線をしない

火災や感電の原因となります。



分解禁止

分解しない、改造しない

火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

- 直ちに販売店に連絡してください。

使用上のお願い

日常点検をしてください。

万一の際（非常時）、機器が正常動作するように日常点検を行ってください。

日常点検時に異常を発見した場合は、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

取り付け高さは変えないでください。

非常用放送設備の取り付け高さは、操作面が床から0.8 m～1.5 mの範囲内と決まっています。特に卓上形として使用する場合、ご注意ください。

「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。

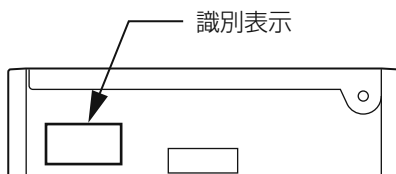
設定された起動方式を確認し、非常時に確実に操作できるように、「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。設定起動は、表題の下に記載しています。

使用温度範囲は、0℃～+45℃です。

この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因となります。

表示について

本機の識別および電源、その他の表示は機器下面（壁取り付け時）をご覧ください。



お手入れについて

ケースが汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。

ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。

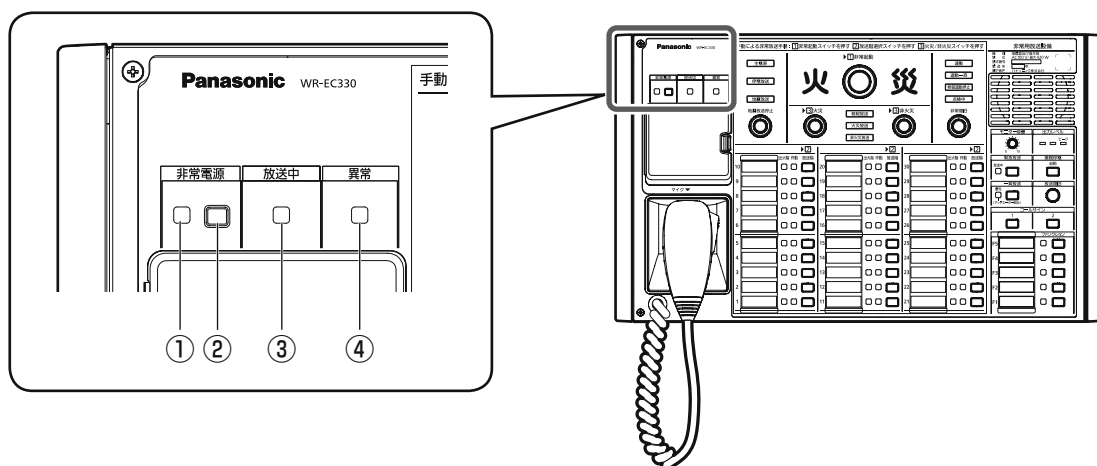
化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。



- 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

各部のなまえと働き

ご使用前に



① 非常電源表示灯【非常電源】（緑色）

通常は消灯しています。非常電源電圧点検スイッチを押すと非常電源電圧の状態を表示します。

点灯（緑色）：正常

消灯：異常（保守契約店または販売店にご連絡ください）

② 非常電源電圧点検スイッチ【非常電源】

非常電源電圧を点検するときに押します。

③ 放送中表示灯【放送中】（緑色）

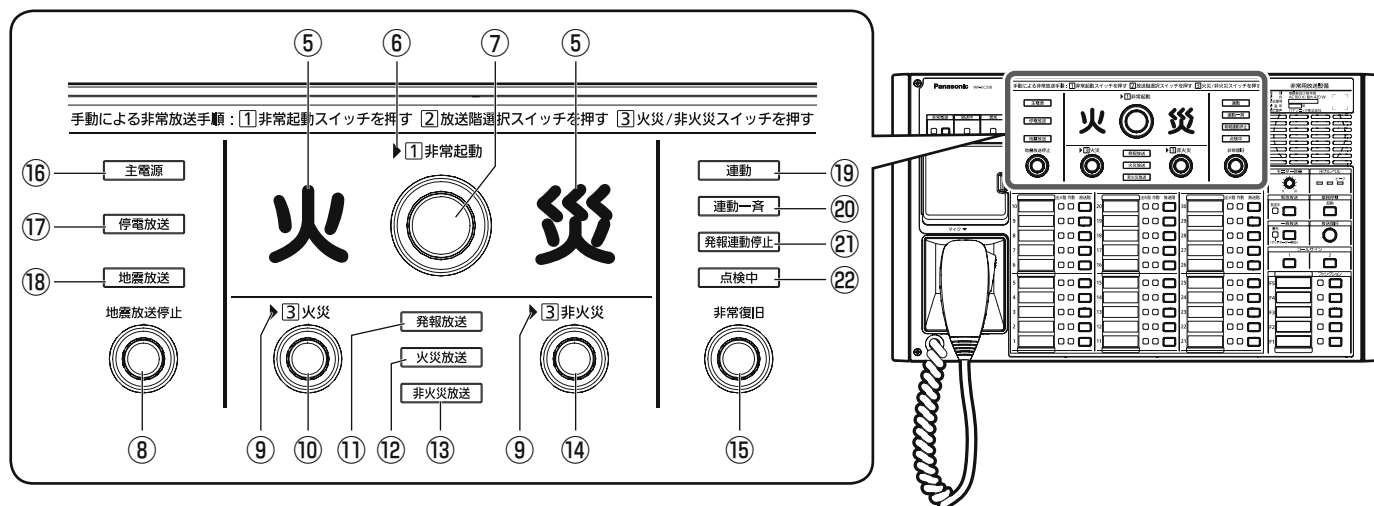
・ 一斉放送スイッチ、ファンクションスイッチまたは放送階選択スイッチで放送先を選択すると点灯し、放送中になります。

・ スwitchを押しても消灯しているときは、優先順位の高い機器からの放送が優先されています。

④ 異常表示灯【異常】（赤色）

異常が発生したときやコンピューター制御スイッチ（12ページ）を「切」にしたときに点灯します。

コンピューター異常やその他の異常が発生したときに点灯します。詳細の異常内容は、スイッチカバー内の症状別異常表示灯の点灯を確認してください。



⑤ 火災表示灯【火災】（赤色）

非常起動すると点滅または点灯します。

点滅の場合：階別信号（EL）による非常起動、または第1タイマー（火災放送移行タイマー）作動中など

点灯の場合：「階別信号（EL）+火災確認信号（EF）」による非常起動など

⑥ 非常起動指示灯【▶】（橙色）

・ 発報放送中は、非常起動スイッチの指示灯が点滅します。

・ 火災放送中は、非常起動スイッチの指示灯が点灯します。

・ 非火災放送中は、非常起動スイッチの指示灯が点滅します。

⑦ 非常起動スイッチ【非常起動】

- ・手動で「非常放送」を放送するときに押します。
- ・発報放送時または火災音信号鳴動時に、このスイッチを押して「火災放送」を放送することができます。

⑧ 緊急地震放送停止スイッチ【地震放送停止】

緊急地震放送を手動で停止させたいときに押します。

⑨ 音声警報選択操作指示灯【▶】（橙色）

- ・発報放送中は、火災放送スイッチおよび非火災放送スイッチの指示灯が点滅します。
- ・火災放送中は、火災放送スイッチの指示灯が点灯し、非火災放送スイッチの指示灯は点滅します。
- ・非火災放送中は、非火災放送スイッチの指示灯が点灯し、火災放送スイッチの指示灯は点滅します。
- ・状況を確認して、放送内容に誤りがあれば選択し直して正しい放送を行ってください。

⑩ 火災放送スイッチ【火災】

火災を確認したときに押します。「火災放送」が放送されます。

⑪ 発報放送表示灯【発報】（橙色）

- ・発報放送されているときは点灯します。
- ・設定された回数の「発報放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑫ 火災放送表示灯【火災】（赤色）

- ・火災放送スイッチを押すと点灯します。
- ・「火災放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑬ 非火災放送表示灯【非火災放送】（緑色）

- ・非火災放送スイッチを押すと点灯します。
- ・「非火災放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑭ 非火災放送スイッチ【非火災】

火災でないことを確認したときに押すと、「非火災放送」が放送されます。

⑮ 非常復旧スイッチ【非常復旧】

非常放送を復旧するときに押します。ただし、感知器が動作している間、非常放送状態は復旧しません。

⑯ 主電源表示灯【主電源】（緑色）

- ・本機に供給されている電源（DC24 V）が動作下限電圧以上のときに、緑色に点灯します。
- ・電源が動作下限電圧以下のときは消灯します。

⑰ 停電放送表示灯【停電放送】（緑色）

常用電源停電時に、緊急地震放送、非常放送、緊急放送、業務放送を行っているときに点灯します。

⑱ 緊急地震放送表示灯【地震放送】（橙色）

緊急地震放送中に点滅します。

⑲ 連動表示灯【連動】（赤色）

点灯しているときに感知器や非常電話または、発信機などからの信号を受信すると、出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。設定は本体側の書き込みで行います。

⑳ 連動一斉表示灯【連動一斉】（赤色）

点灯しているときに感知器や非常電話・発信機などからの信号を受信すると、全館一斉に「非常放送」が放送されます。設定は本体側の書き込みで行います。

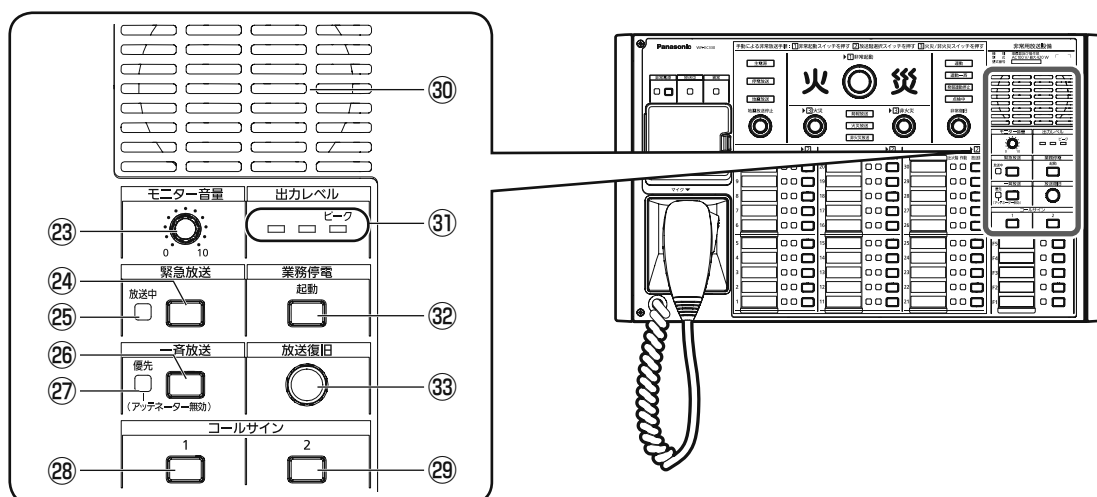
㉑ 発報連動停止表示灯【発報連動停止】（赤色）

点灯しているときに感知器からの階別信号（EL）を受信しても発報放送を行わず、火災音信号（ピーピーピー）が本機のモニタースピーカーから鳴ります。設定は本体側の書き込みで行います。

㉒ 点検中表示灯【点検中】（緑色）

通常は消灯しています。非常用放送設備本体側で、点検モードになっているときに点滅します。点検のしかたによってはスピーカー回線が遮断されることがありますので、表示灯が消灯していることを確認して放送を行ってください。

各部のなまえと働き



②③ モニター音量つまみ【モニター音量 0、10】

- ・ モニタースピーカーの音量を調節します。
- ・ 非常放送時、緊急放送時はモニター音量つまみの状態に関係なく最大音量となります。

②④ 緊急放送スイッチ【緊急放送】

- ・ 火災発生以外の災害、事故などの緊急事態が発生し、放送中の業務放送を止めて最優先で放送を行うときに押します。
- ・ 押すと、あらかじめ登録された放送先への緊急放送が可能な状態になります。放送したい階の放送階選択スイッチまたは一斉放送スイッチを押して、放送先を追加、変更することができます。
- ・ 業務用蓄電池（別売品）が内蔵されている場合は、常用電源停電時も動作します。

②⑤ 緊急放送表示灯【放送中】（赤色）

緊急放送スイッチを押すと点灯します。本機または本体で緊急放送を行うと点灯します。

②⑥ 一斉放送スイッチ【一斉放送】

- ・ 全館に一斉放送するときに押します。一斉放送に設定した放送階の階別作動表示灯が点灯します。

②⑦ 優先一斉放送表示灯【優先、（アッテネーター無効）】（緑色）

一斉放送スイッチに優先（アッテネーター無効）が設定されている場合、一斉放送スイッチを押すと点灯します。本体側で一斉放送を行うと点灯します。

②⑧ コールサイン1スイッチ【コールサイン 1】

放送中表示灯が点灯しているときに押すと、コールサイン1の音が放送されます。
出荷時設定では、上り4音が放送されます。
コールサインは業務放送時に使用できます。非常放送、緊急放送時は放送されません。

②⑨ コールサイン2スイッチ【コールサイン 2】

放送中表示灯が点灯しているときに押すと、コールサイン2の音が放送されます。
出荷時設定では、下り4音が放送されます。
コールサインは業務放送時に使用できます。非常放送、緊急放送時は放送されません。

③⑩ モニタースピーカー

放送状態を確認できます。ハウリング防止のため、マイクスイッチを押すとモニタースピーカーからの音は「切」になります。

③⑪ 出力レベルメーター【出力レベル ピーク】

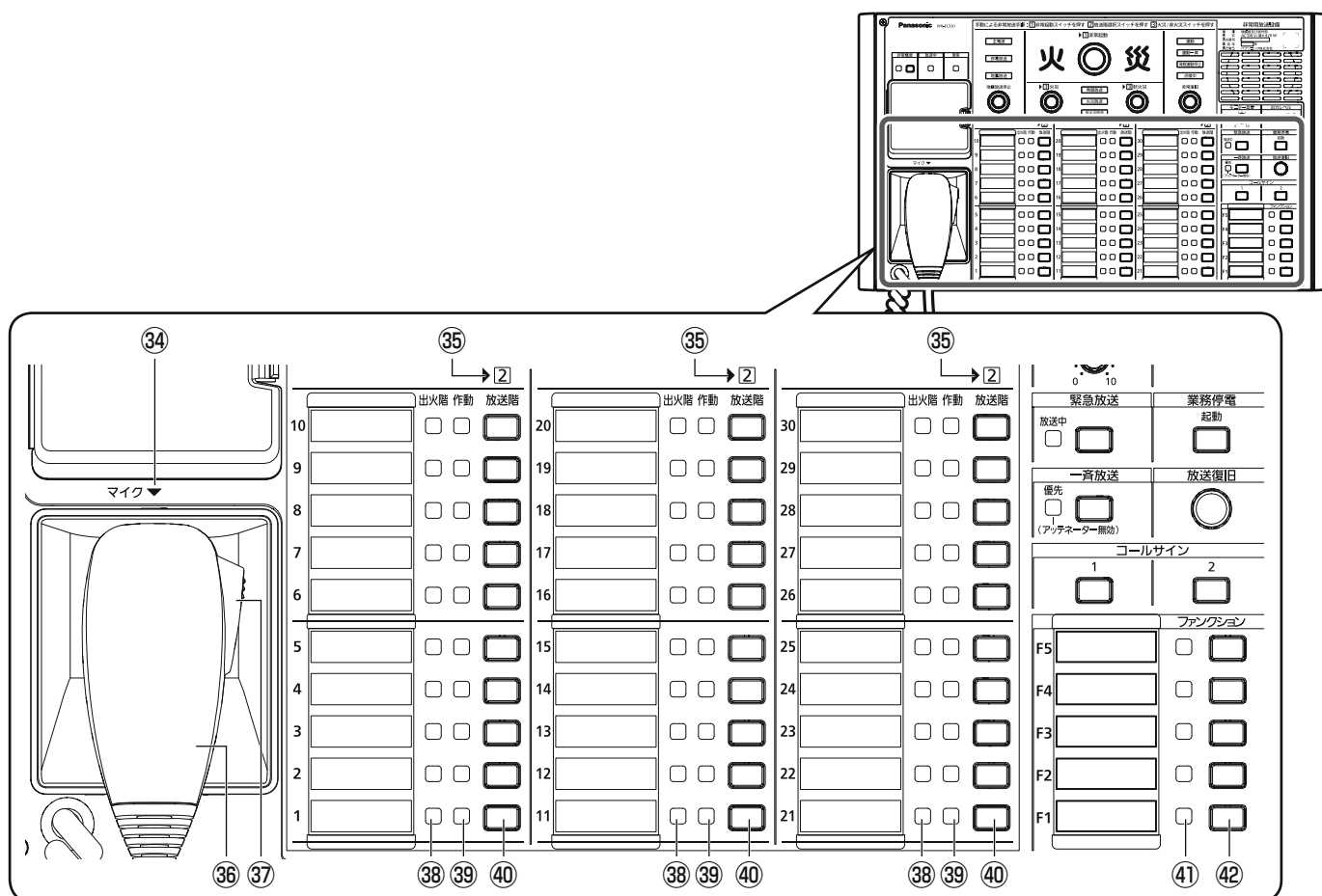
- ・ 本体の出力レベルを表示します。
- ・ 赤色の表示灯（ピークレベル）が連続点灯しないように、接続された機器の音量を調節してください。

③⑫ 業務停電起動スイッチ【業務停電 起動】

常用電源停電時に業務放送を行う場合に、業務用蓄電池（別売品）からの電源供給を行うためのスイッチです。
※本スイッチは、業務用蓄電池が接続されていない場合は、動作しません。

③⑬ 放送復旧スイッチ【放送復旧】

放送終了後に押します。放送階選択スイッチ、ファンクションスイッチで選択した放送先がすべて解除されます。
操作パネルの緊急放送スイッチや業務停電起動スイッチによる停電起動中に何も放送されていない状態で押すと、業務用蓄電池からの電源供給は遮断され、停電放送が終了します。



③④ マイク操作指示灯 [▼] (橙色)

- ・非常放送時、点滅します。(業務放送時は点灯・点滅しません)
- ・マイク放送している間は点灯します。

③⑤ 放送階選択操作指示灯 [▶] (橙色)

- ・非常時(階別信号(EL)など外部起動で非常動作になった場合)に点灯します。
- ・手動非常放送動作時(非常起動スイッチを押す)に点滅します。階別信号入力または手動入力(放送階選択スイッチを押す)で点灯します。

③⑥ 非常、業務放送兼用マイクロホン(以下、本体マイク)

- ・業務放送中に火災感知器、発信機または非常電話からの起動で非常放送が入った場合、マイクでの放送は遮断され、非常放送(音声警報)が優先されます。避難誘導などを放送するときはマイクスイッチを一度離し、再度マイクスイッチを押してください。
- ・非常放送時、マイク放送は音声警報より優先されます。適切な避難誘導を行ってください。

③⑦ マイクスイッチ

本機の本体マイクから放送を行う場合に押します。マイクを取り、マイクスイッチを押しながら放送します。

③⑧ 出火階表示灯 [出火階] (赤色)

非常放送動作時、点灯で出火階を表示します。(階別信号(EL)により起動を受けた階の表示灯が点灯します)

③⑨ 階別作動表示灯 [作動] (緑色)

- ・放送階選択スイッチ、一斉放送スイッチ、ファンクションスイッチで放送先を設定した場合に押すと点灯します。
- ・感知器や非常電話または発信機からの起動により非常放送状態になった場合、出火階と連動階が点灯します。
- ・表示灯が点滅したときは、点滅した階のスピーカー回線が短絡しています。このとき、故障表示の異常表示灯と、スイッチカバー内の回線短絡表示灯が点灯します。販売店または保守契約店にご連絡ください。

各部のなまえと働き

④① 放送階選択スイッチ【放送階】

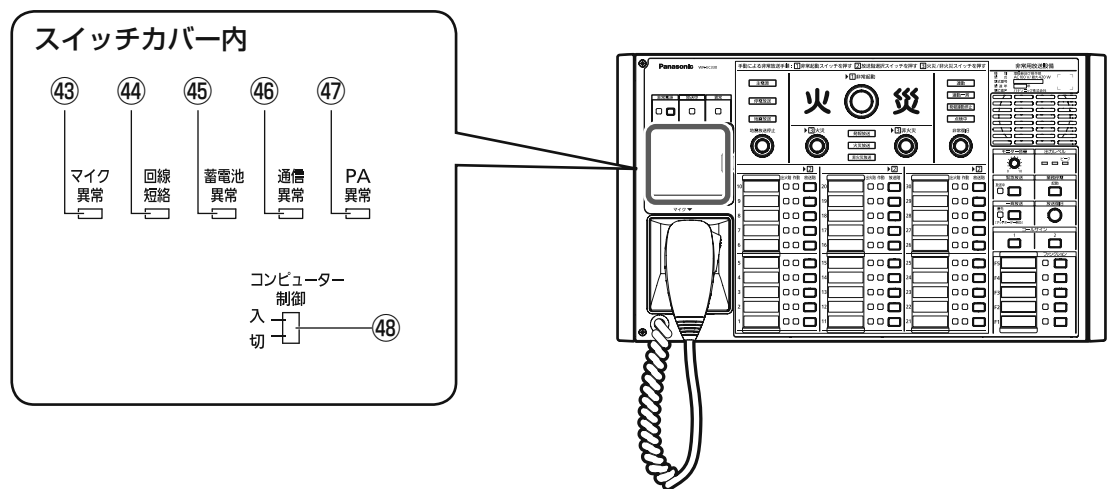
放送したい階を選択するときに押します。(階別作動表示灯が点灯します) 再度押すと、選択を解除します。(階別作動表示灯が消灯します)

④① ファンクション作動表示灯【F1～F5】(緑色)

ファンクションスイッチを押すと点灯します。

④② ファンクションスイッチ【F1～F5】

- ・ブロック指定した場所に放送するときに押します。(選択したファンクション作動表示灯が点灯します) 再度押すか放送復旧スイッチを押すと、選択が解除されます。(ファンクション作動表示灯が消灯します)
- ・あらかじめ設定された本体の内蔵メッセージやSDカード音源の放送や、外部機器の制御ができます。



④③ マイク異常表示灯【マイク異常】(赤色)

本機の本体マイクがなんらかの原因で断線状態になると点灯します。

④④ 回線短絡表示灯【回線短絡】(赤色)

スピーカー回線が短絡したときに点灯します。また、短絡した階の階別作動表示灯が点滅します。

④⑤ 蓄電池異常表示灯【蓄電池異常】(赤色)

本体で蓄電池点検時、蓄電池の容量が動作電圧以下になっていると点灯します。蓄電池の交換をしてください。

④⑥ 通信異常表示灯【通信異常】(赤色)

非常用放送設備と非常リモコン間の通信に異常があると点灯します。

④⑦ PA異常表示灯【PA異常】(赤色)

非常用放送設備に組み込んだ電力増幅ユニットに異常があると点灯します。

④⑧ コンピューター制御スイッチ【コンピューター制御】

- ・通常は、必ず「入」にしてください。
- ・本機はCPUにより制御されています。万一、正常動作していないときは、本スイッチを「切」にしてください。異常表示灯とすべての階別作動表示灯が点灯し、本体マイクで一斉放送（アッテネーター無効）を行うことができます。
※この一斉放送は、全スピーカー回線からの放送となり、一斉スイッチのスピーカー回線設定は無効となります。
- ・コンピューター制御スイッチを「切」にすると、異常表示灯とすべての階別作動表示灯が点灯します。
- ・非常放送用蓄電池、緊急・業務放送用蓄電池が異常時に点灯します。詳細は本体の蓄電池点検結果画面で確認してください。

放送の種類について

■ 緊急地震放送

緊急地震速報受信端末に連動して、本体に内蔵された地震放送用メッセージを、非常放送より優先して放送します。停電時も非常用蓄電池を使用して放送が行えます。

■ 非常放送

火災発生時に避難誘導を行うための放送です。自動火災報知設備の感知器や受信機などに連動して放送します。また本体や非常リモコンを操作して手動で放送することもできます。停電時も非常用蓄電池を使用して放送が行えます。

感知器発報放送.....感知器などが作動したときに火災発生を確認していることを知らせる放送です。

火災放送.....火災が発生したことを知らせる放送です。

非火災放送.....確認の結果、火災の発生がなかったことを知らせる放送です。

■ 緊急放送

本体の緊急放送起動入力、本体または非常リモコンの緊急放送スイッチによりマイクや緊急メッセージの放送をワンタッチで行うことができます。非常放送時は緊急放送は中断します。

■ 業務放送

リモコンによる呼び出し放送や決められた時刻に放送を行うチャイム放送、BGMや案内放送など日常的に使用する放送です。BGM放送を除く放送は、放送が重複したときに放送の優先順位の設定ができます。

本体放送・非常リモコン放送.....本体または非常リモコンの一齐放送スイッチや放送階選択スイッチで放送先を選択して操作パネルの本体マイクや本体の音声入力に接続された音源機器からの放送ができます。本体マイクのマイクスイッチとの連動やコールサインスイッチを押してコールサインを鳴らすこともできます。

マルチリモコン放送.....マルチリモコンマイクの一齐放送スイッチや放送エリアスイッチで放送先を選択して放送スイッチを押すとフレキシブルマイクや音声入力に接続された音源機器からの放送ができます。コールサインスイッチを押してコールサインを鳴らすこともできます。

リモコンマイク放送.....リモコンマイクの一齐放送ボタンや個別放送ボタンで放送先を選択して放送ボタンを押すとフレキシブルマイクやライン入力に接続された音源機器からの放送ができます。コールサインスイッチを押してコールサインを鳴らすこともできます。

チャイム放送.....外部音源機器からの制御信号と音声信号をチャイム入力に接続することにより、あらかじめ設定した放送先にチャイム放送を流すことができます。設定により、内蔵のチャイム音源を鳴動することもできます。

外部マイク放送.....外部マイクからの制御信号と音声信号を外部マイク入力に接続することにより、あらかじめ設定した放送先に外部マイクを使用しでの放送ができます。

外部制御入力放送.....外部音源機器などからの制御信号と音声信号を外部制御入力と本体のマイク、ライン音声入力に接続することによりあらかじめ設定した放送先に放送ができます。内蔵音源やSDカード音源を放送することもできます。

ページング放送.....電話交換機などからの制御信号と音声信号をページング入力に接続することによりあらかじめ設定した放送先に電話機から呼び出し放送などが行えます。

BGM放送.....BGM入力に接続された外部音源機器により、あらかじめ設定した放送先にBGM放送を流すことができます。BGM放送は他の放送が行われたときに自動的に音量を下げるすることができます。

■ 緊急・業務停電放送

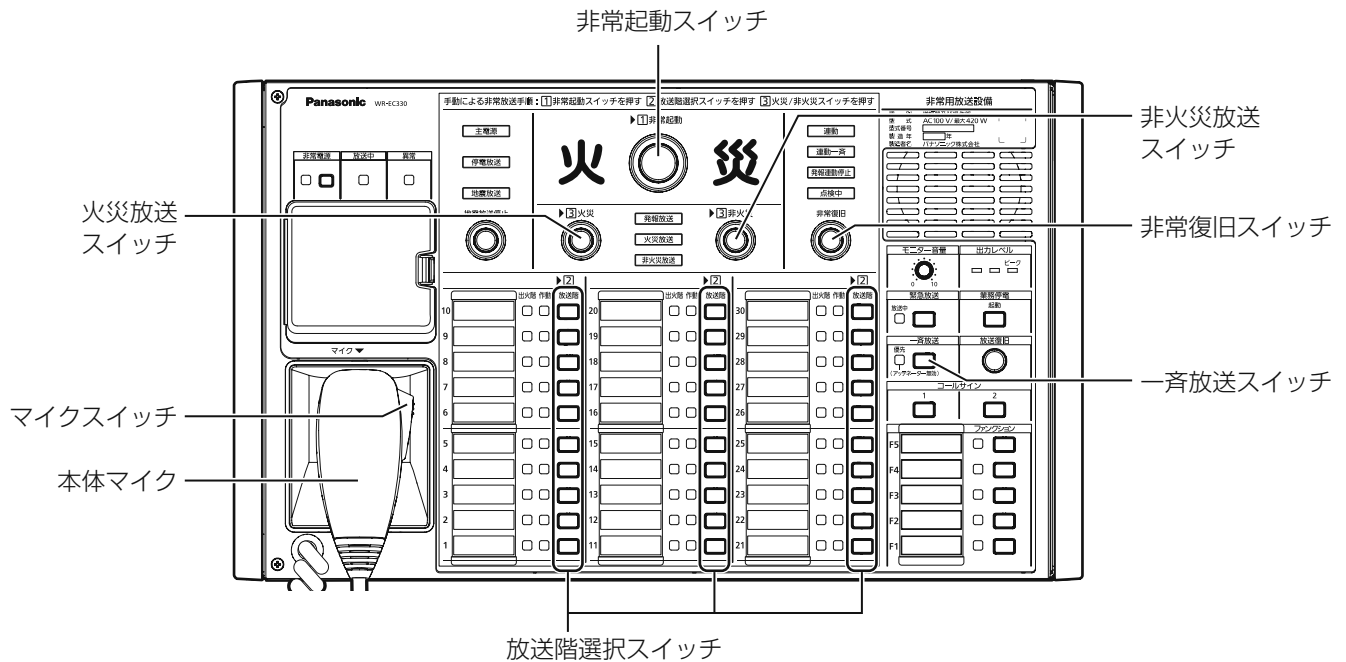
本体に業務用蓄電池を収納すると緊急放送・業務放送で停電時に放送を行うことができます。

非常放送のしかた

非常放送は、自動火災報知設備の感知器や発信機・非常電話が起動すると自動的に放送が開始されます。非常放送を起動する方法、設定した内容により動作が異なります。

- ・ 自動火災報知設備の感知器起動の場合 ⇨ 15、16ページ
- ・ 非常電話・発信機起動の場合 ⇨ 17ページ
- ・ 手動起動の場合 ⇨ 18、19ページ

■ 非常放送時に操作するスイッチ



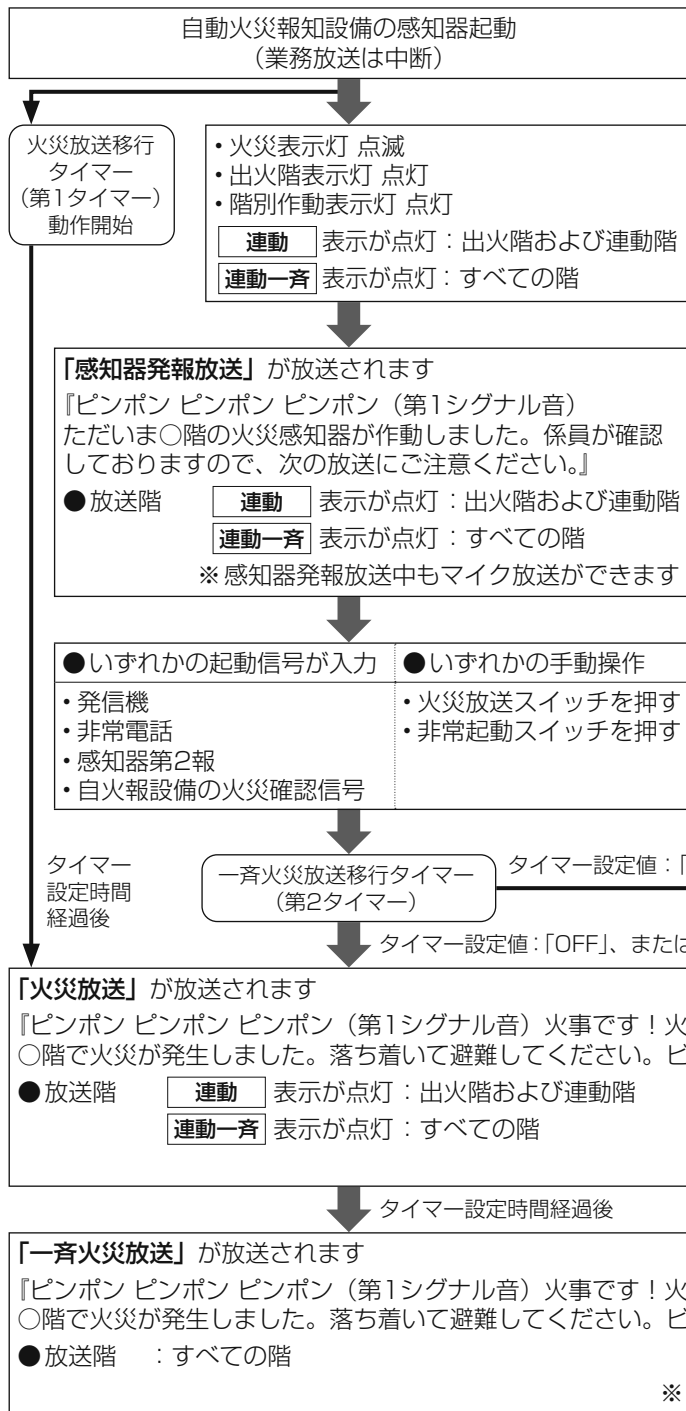
非常放送時に使用するスイッチは以下のとおりです。

- 非常起動スイッチ : 非常放送を開始するときに押します。
- 火災放送スイッチ : 火災放送を手動で行うときに押します。
- 非火災放送スイッチ : 非火災放送を行うときに押します。
- 一斉放送スイッチ : 全館に一斉放送を行うときに押します。
- 放送階選択スイッチ : 放送したい階を追加、解除するときに押します。階別作動表示灯が点灯しているスイッチを押すと選択が解除されます。
- 非常復旧スイッチ : 非常放送を終了するときに押します。自動火災報知設備の感知器や発信機・非常電話が起動している状態では再度非常放送を開始するので、起動を復旧したあと、非常復旧スイッチを押してください。

非常放送のしかた（１） 感知器起動

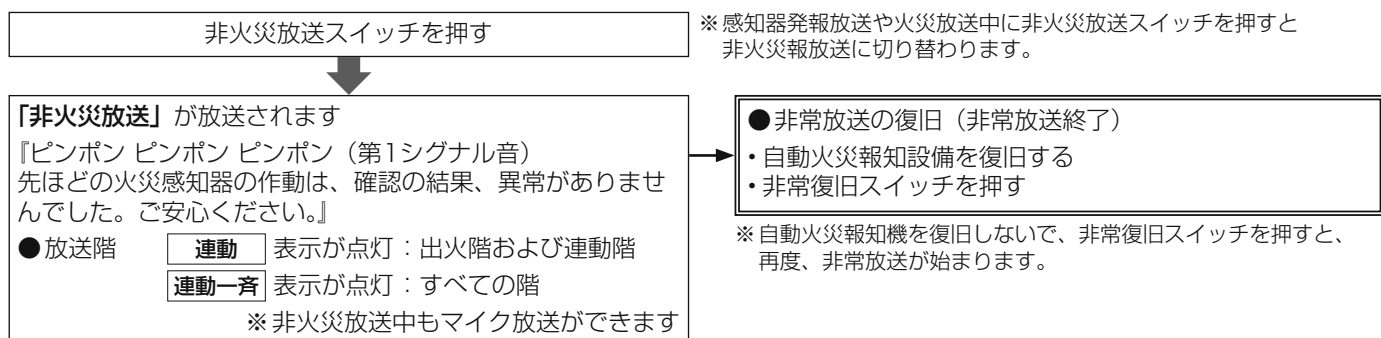
■ 感知器起動の場合

発報連動停止：消灯



※ 一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

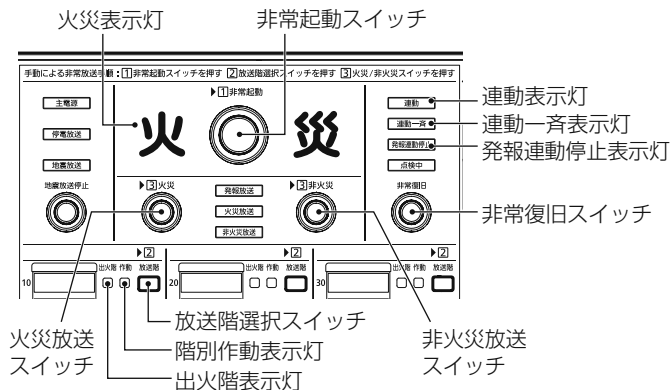
■ 火災でなかった場合



● タイマー設定値

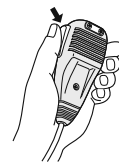
火災放送移行タイマー (第1タイマー)	分 秒
一斉火災放送移行タイマー (第2タイマー)	☐ OFF / ☐ 0分 / ☐ 分 秒

● 操作パネル



● マイク放送のしかた

スイッチを押す



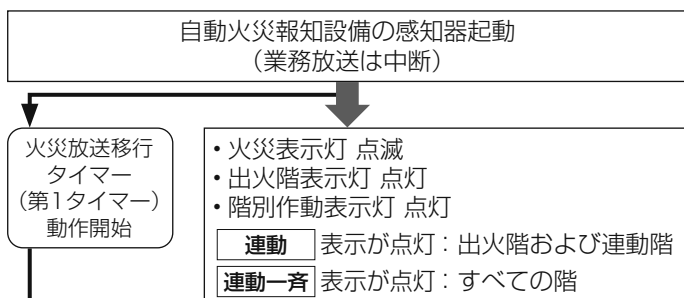
- ・マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- ・放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- ・火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります

操作

非常放送のしかた (2) 感知器起動

■ 感知器起動の場合

発報連動停止：点灯



「感知器発報放送」は放送されません。

火災音信号と音声指示ガイダンスがモニタースピーカーから出力されます

『ピー、ピー（火災音信号）火災感知器が作動しました。火災のときは火災放送スイッチを押してください。火災でないときは自動火災報知設備を復旧して非常復旧スイッチを押してください。』（音声指示ガイダンス）

● いずれかの起動信号が入力

- 発信機
- 非常電話
- 感知器第2報
- 自火報設備の火災確認信号

● いずれかの手動操作

- 火災放送スイッチを押す
- 非常起動スイッチを押す

タイマー
設定時間
経過後

一斉火災放送移行タイマー
(第2タイマー)

タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

● 放送階

連動 表示が点灯：出火階および連動階

連動一斉 表示が点灯：すべての階

※ 火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

「一斉火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

● 放送階

すべての階

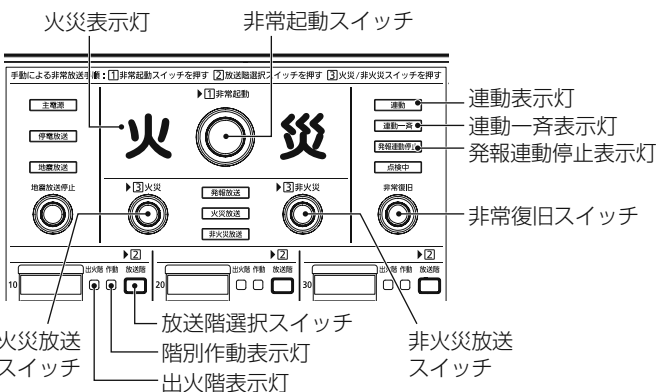
※ 一斉火災放送中もマイク放送ができます

※ 一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

● タイマー設定値

火災放送移行タイマー (第1タイマー)	分 秒
一斉火災放送移行タイマー (第2タイマー)	☐ OFF / ☐ 0分 / ☐ 分 秒

● 操作パネル



● マイク放送のしかた

スイッチを押す

- マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- 放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- 火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります



■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※ 感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

● 放送階

連動 表示が点灯：出火階および連動階

連動一斉 表示が点灯：すべての階

※ 非火災放送中もマイク放送ができます

● 非常放送の復旧（非常放送終了）

- 自動火災報知設備を復旧する
- 非常復旧スイッチを押す

※ 自動火災報知機を復旧しないで、非常復旧スイッチを押すと、再度、非常放送が始まります。

非常放送のしかた (3) 非常電話・発信機起動

■ 非常電話・発信機起動の場合

非常電話または発信機からの起動
(業務放送は中断)

・火災表示灯 点滅
・出火階表示灯 点灯
・階別作動表示灯 点灯

連動 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

☐ 発報火災設定：発報

☐ 発報火災設定：火災

「感知器発報放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
ただいま〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※ 感知器発報放送中もマイク放送ができます

●いずれかの起動信号が入力 ●いずれかの手動操作

・感知器
・発報放送終了

・火災放送スイッチを押す
・非常起動スイッチを押す

一斉火災放送移行タイマー (第2タイマー) タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音) 火事です！火事です！
〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)』

●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※ 火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

「一斉火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音) 火事です！火事です！
〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)』

●放送階：すべての階

※ 一斉火災放送中もマイク放送ができます

※ 一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※ 感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと
非火災放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

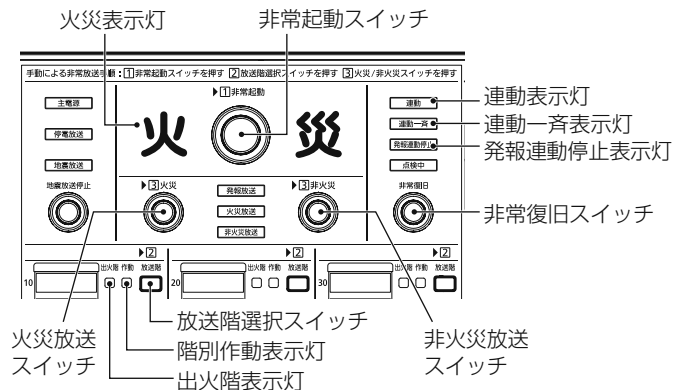
●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※ 非火災放送中もマイク放送ができます

● タイマー設定値

火災放送移行タイマー (第1タイマー)	—
一斉火災放送移行タイマー (第2タイマー)	☐ OFF / ☐ 0分 / ☐ 分 秒

● 操作パネル



● マイク放送のしかた

スイッチを押す

- ・マイク放送はいつでも放送できます (最優先)
- ・放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- ・火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー (第2シグナル音)」の連続になります



操作

非常放送のしかた（４） 手動起動（発報）

■ 手動起動の場合

発報火災切換：発報

火災情報を入力

- ① 非常起動スイッチを押す（非常起動スイッチを押すと業務放送は中断）
- ② 放送が必要な放送階選択スイッチ、または全館に放送するときは一斉スイッチを押す

火災放送移行タイマー
（第1タイマー）
動作開始

- ・火災表示灯 点滅
- ・階別作動表示灯 点灯：選択した放送階

「感知器発報放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

- 放送階

連動
連動一斉

 表示が点灯：出火階および連動階
 - 連動一斉 表示が点灯：すべての階
- ※ 感知器発報放送中もマイク放送ができます

- いずれかの起動信号が入力
 - ・感知器
 - ・非常電話
 - ・発信機

- いずれかの手動操作
 - ・火災放送スイッチを押す
 - ・非常起動スイッチを押す

タイマー
設定時間
経過後

一斉火災放送移行タイマー
（第2タイマー）

タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

- 放送階

連動
連動一斉

 表示が点灯：出火階および連動階
 - 連動一斉 表示が点灯：すべての階
- ※ 火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

「一斉火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

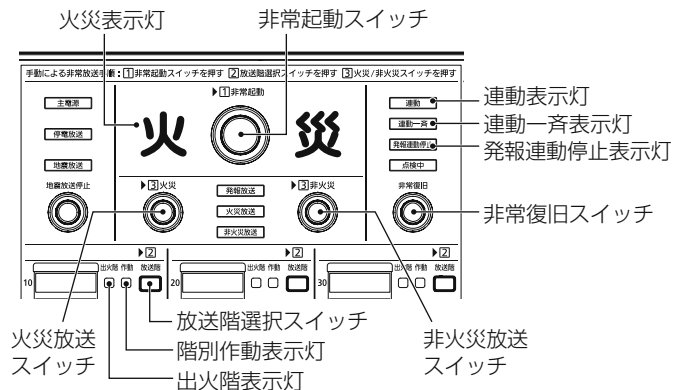
- 放送階：すべての階
- ※ 一斉火災放送中もマイク放送ができます

※ 一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

● タイマー設定値

火災放送移行タイマー （第1タイマー）	分 秒
一斉火災放送移行タイマー （第2タイマー）	☐ OFF / ☐ 0分 / ☐ 分 秒

● 操作パネル



● マイク放送のしかた

- ・マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- ・放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- ・火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります



■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※ 感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

- 放送階

連動
連動一斉

 表示が点灯：出火階および連動階
 - 連動一斉 表示が点灯：すべての階
- ※ 非火災放送中もマイク放送ができます

● 非常放送の復旧（非常放送終了）

- ・非常復旧スイッチを押す

非常放送のしかた（5）手動起動（火災）

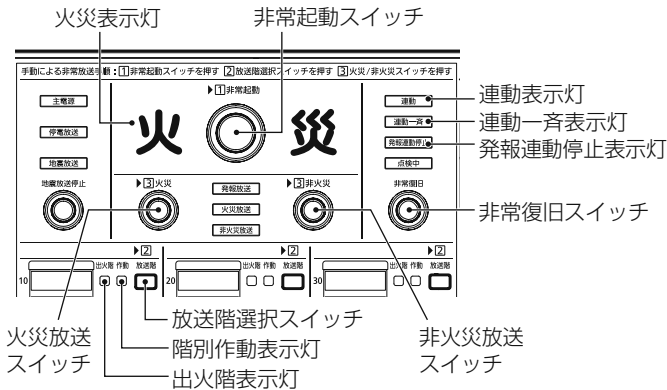
■ 手動起動の場合

発報火災切換：火災

● タイマー設定値

火災放送移行タイマー (第1タイマー)	—
一斉火災放送移行タイマー (第2タイマー)	☐ OFF / ☐ 0分 / ☐ 分 秒

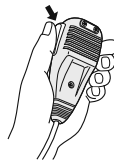
● 操作パネル



● マイク放送のしかた

スイッチを押す

- ・マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- ・放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- ・火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります



- ・火災表示灯 点灯
- ・階別作動表示灯 点灯：選択した放送階

一斉火災放送移行タイマー
(第2タイマー)

タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

- 放送階 ☐ 連動 表示が点灯：出火階および連動階
- ☐ 連動一斉 表示が点灯：すべての階

※ 火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

「一斉火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

- 放送階：すべての階

※ 一斉火災放送中もマイク放送ができます

※ 一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※ 感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災報放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます

『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

- 放送階 ☐ 連動 表示が点灯：出火階および連動階
- ☐ 連動一斉 表示が点灯：すべての階

※ 非火災放送中もマイク放送ができます

● 非常放送の復旧（非常放送終了）

- ・非常復旧スイッチを押す

操作

緊急地震放送について

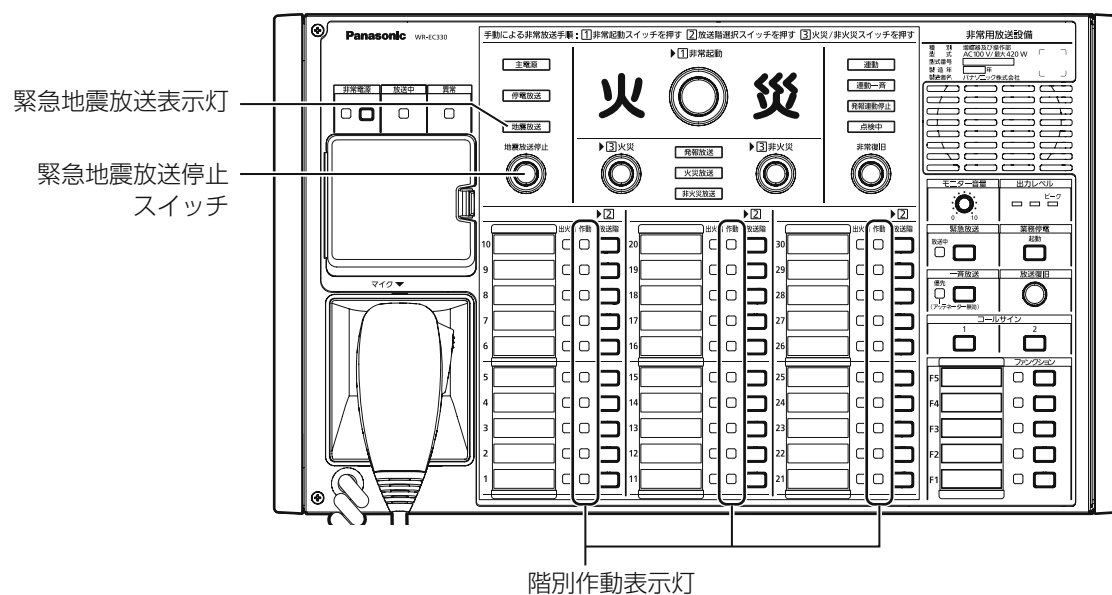
緊急地震放送とは

緊急地震速報受信端末からの起動信号により、自動で地震放送ができます。

緊急地震放送は、放送の優先順位が最上位で、この放送を行っている間は、非常放送、緊急放送、業務放送、およびマイク放送は行えません。また、停電時も非常放送用の非常電源により放送が可能です。

緊急地震放送の動作

操作



緊急地震速報受信端末より緊急地震速報を受信



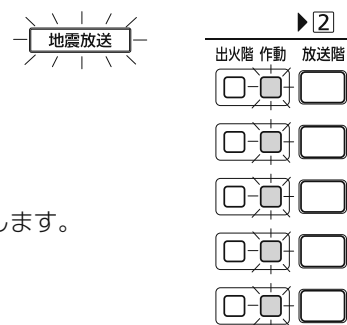
緊急地震放送表示灯が点滅し、緊急地震放送が放送される

サイン音2回。「地震です。落ち着いて身を守ってください。」

- あらかじめ設定した階すべてに放送されます。
(手動操作により、放送階に追加・削除を行うことはできません)
- マイク放送はできません。

※ 緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。

サイン音はREIC、NHKから選択できます。設定は本体の書き込みで行います。



緊急地震放送を停止させたいときは

緊急地震放送停止スイッチを押す

緊急地震放送が停止します。

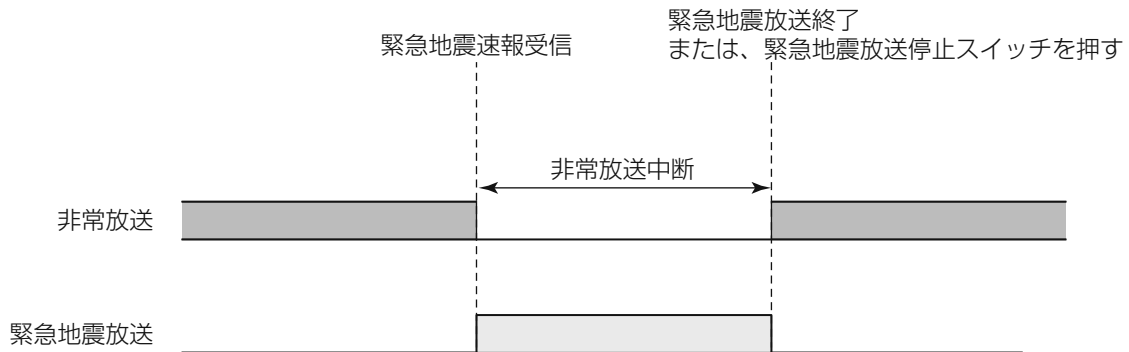
※ 緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。



緊急地震放送を行っているときの非常放送について

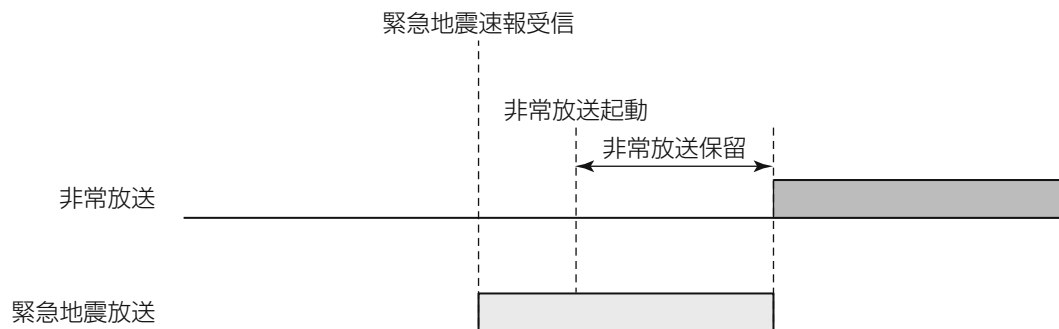
緊急地震放送は、非常放送より優先して放送されます。緊急地震放送中の非常放送の動作は以下のとおりです。

●非常放送中に緊急地震速報を受信したとき



- 非常放送中に緊急地震速報を受信した場合、非常放送は中断し、緊急地震放送に切り換わります。

●緊急地震放送中に非常放送起動入力を受信したとき



- 緊急地震放送中に非常放送が起動した場合、緊急地震放送が優先され、非常放送は保留状態になります。
- 緊急地震放送中は、非常放送に関するスイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作は無効となりますが、非常放送の階別信号（EL）や火災確認信号（EF）を受信した場合は保留状態となり、緊急地震放送終了後の非常放送状態に反映されます。
- 緊急地震放送中に、非常放送を優先させたいときは、緊急地震放送停止スイッチを押して、緊急地震放送を終了させる必要があります。

緊急放送のしかた

緊急事態のとき、業務放送に優先して緊急放送を行うことができます。

※ 緊急放送中に非常放送、緊急地震放送が発生した場合は放送を中断します。

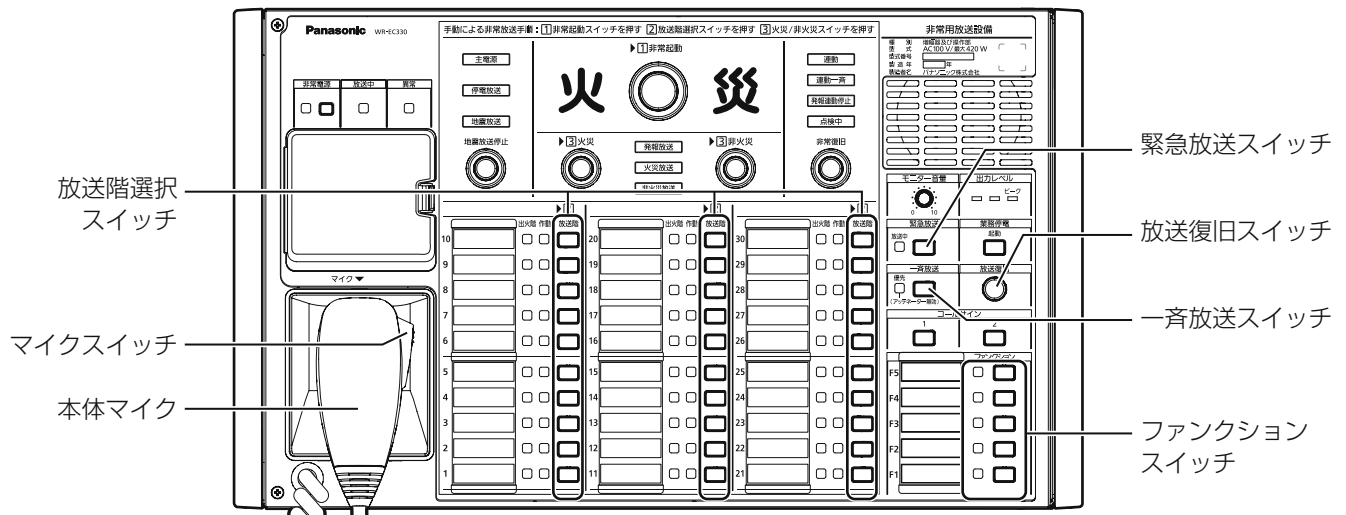
緊急放送スイッチあるいは本体の緊急放送制御端子により緊急放送を行うことができます。それぞれの緊急放送で放送可能な音声は以下のとおりです。

緊急放送スイッチ：本体マイク、チューナー、音源メッセージ（ファンクションスイッチ）

緊急放送制御端子：緊急放送音声入力 または 音源メッセージ

- ・ ファンクションスイッチによる音源再生については本体の施工説明書をお読みください。
- ・ 緊急放送制御端子により放送する音声は本体の施工説明書をお読みください。

操作



緊急放送スイッチを押す

あらかじめ緊急放送スイッチに放送先が登録されている場合は、登録された放送先の階別作動表示灯が点灯します。

放送したい場所の放送階選択スイッチまたは、ファンクションスイッチ（放送先割り当て）を押す



一斉放送するときは、一斉放送スイッチを押す



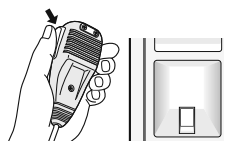
音源メッセージを再生する

あらかじめ音源メッセージ再生機能に設定されたファンクションスイッチを押します。



マイクで放送する

スイッチを押す



あらかじめ設定された放送先に緊急音声入力あるいはメッセージが放送されます。

外部機器により本体の緊急放送制御端子をONする

緊急放送音声入力 で放送する場合

ミュージックレコーダーなどを「再生」にします。操作方法については、お手持ちのミュージックレコーダーなどの取扱説明書をお読みください。

メッセージで 放送する場合

外部センサーなどの機器から制御信号を受信する。

あらかじめ設定された放送先に緊急音声入力あるいはメッセージが放送されます。

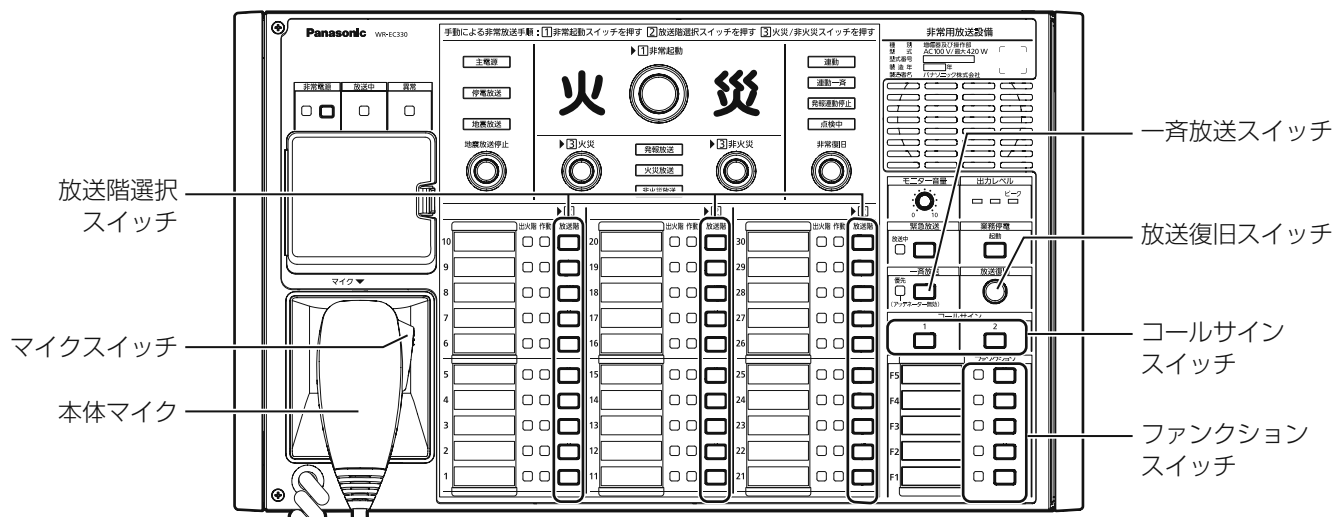
外部機器により本体の緊急放送制御端子をOFFにする

放送復旧スイッチを押す

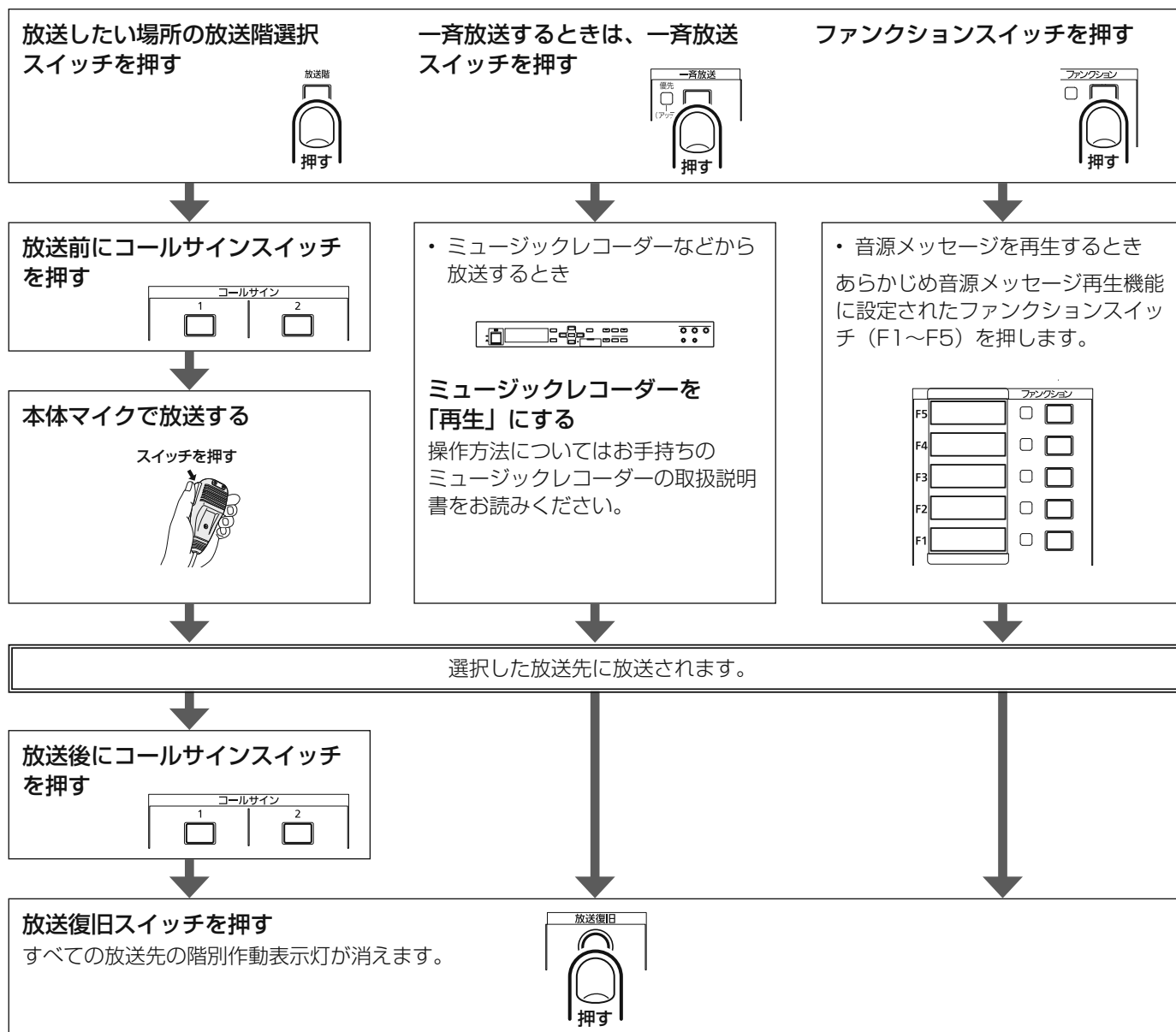
業務放送のしかた

業務連絡、呼び出し放送およびBGM放送など日常的に使用する放送です。

※ 業務放送中に非常放送、緊急地震放送、緊急放送が発生した場合は放送を中断します。
本機からできる業務放送は、本体マイク、ライン入力、音源メッセージです。



操作

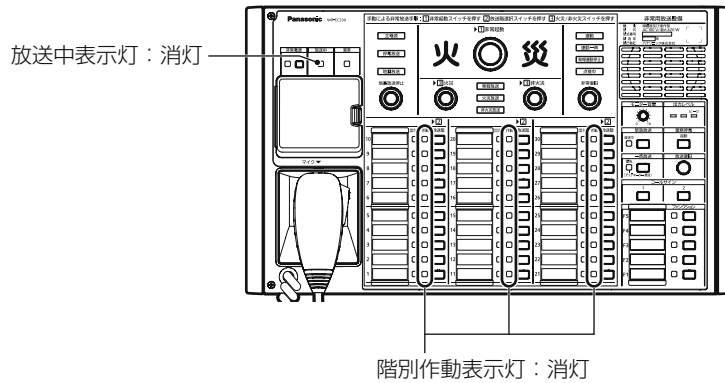


相互通話のしかた

放送が行われていないときは、壁掛形非常用放送設備（本体）と非常リモコン間で、本体マイクを使っでの相互通話（インターホン）をすることができます。

■ 相互通話のしかた

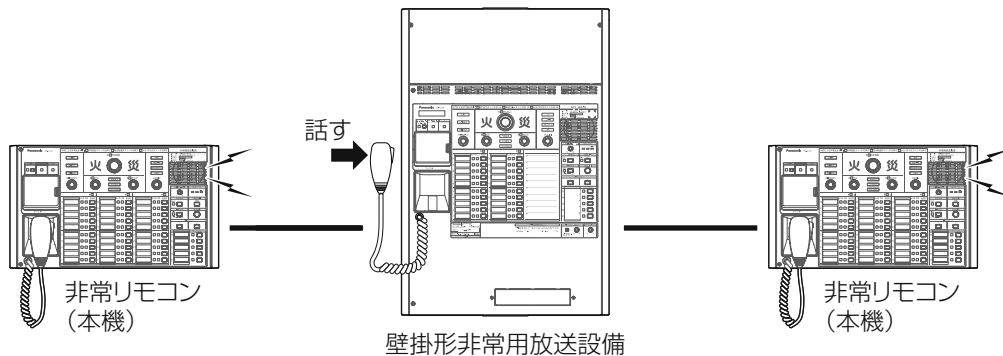
1. 階別作動表示灯と放送中表示灯が消灯し、放送が行われていないことを確認する



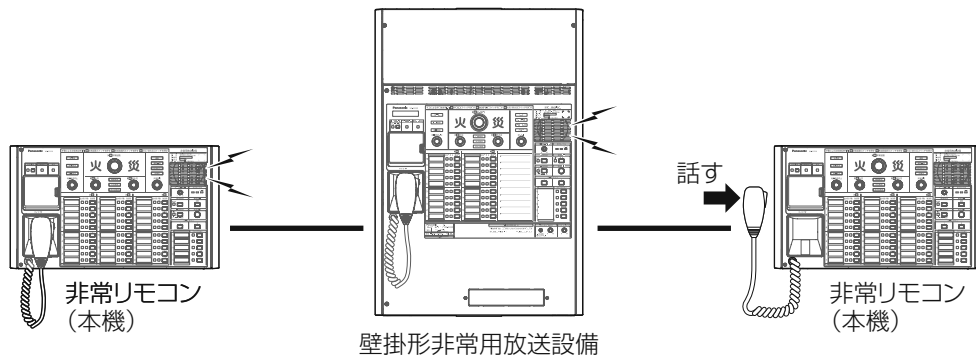
※放送階選択スイッチが押され、作動表示灯が点灯していると、マイク音声は選択された階へ放送されます。

2. 本体マイクを取り、マイクスイッチを押しながら話す

- 壁掛形非常用放送設備の本体マイクからの音声は、つながっているすべての非常リモコンのモニタースピーカーから出力されます。



- 非常リモコンの本体マイクからの音声は、壁掛形非常用放送設備と他の非常リモコンのモニタースピーカーから出力されます。



日常点検

- 重要** ・ 万一の際、的確に機器が動作するよう日常点検を行ってください。日常点検時に異常を発見したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。修理、復旧を実費で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

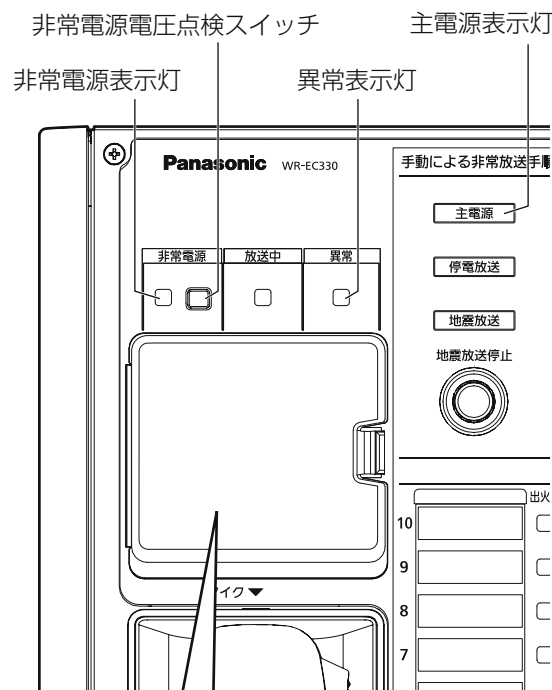
電源の点検

■ 主電源の点検

操作パネルの主電源表示灯が点灯していることを確認する。
本体から供給されるDC24 V電源が動作下限電圧以下のときは消灯します。
停電時は消灯します。

■ 非常電源電圧の点検

表示灯は通常消灯しています。
非常電源電圧点検スイッチを押して、非常電源電圧を確認する。
非常電源電圧が正常のときは点灯します。
動作電圧以下のときは点灯しません。
点灯しない場合、非常用放送設備内蔵の蓄電池が充電されていないか、蓄電池が寿命の可能性あります。(蓄電池の寿命は約4年です)



操作

異常時の表示について

■ 「異常」 が点灯

コンピューター制御スイッチが「切」、またはその他の異常が発生しています。

コンピューター異常

スイッチカバー内の異常表示灯がすべて消灯しているのに、異常表示灯が点灯している場合、コンピューター制御スイッチが「切」です。
スイッチカバー内のコンピューター制御スイッチを「切」にすると、緊急対応として本体マイクおよびライン入力で一斉放送を行うことができます。

スイッチカバー内

マイク異常表示灯

回線短絡表示灯

マイク異常

回線短絡

蓄電池異常

通信異常

PA異常

蓄電池異常表示灯

通信異常表示灯

PA異常表示灯

■ その他の異常内容はスイッチカバー内の表示灯の点灯で表示します。

スイッチカバーを開け、どこかの異常かを確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。ブザー音は、操作パネル面のいずれかのスイッチを押すと鳴動が止まります。

「マイク異常」 が点灯

： 本体マイクが断線状態になっています。

「回線短絡」 が点灯

： 放送を行おうとしたスピーカー回線が短絡しています。
短絡した階の階別作動表示灯が点滅します。

「蓄電池異常」 が点灯、ブザー音が鳴動

： 本体の非常用蓄電池あるいは業務用蓄電池の電圧が動作電圧以下です。蓄電池を交換してください。

※ 業務用蓄電池が未接続の場合は蓄電池異常は発生しません。

「通信異常」 が点灯、ブザー音が鳴動

： 非常用放送設備と非常リモコン間の通信に異常があります。

「PA異常」 が点灯

： 非常用放送設備に組み込んだ電力増幅ユニットに異常があります。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

操作

現象	原因・対策	参照ページ
本機から放送ができない	● 本機の主電源表示灯は点灯していますか？ 本体の主電源表示灯は点灯していますか？ → 消灯している場合、本機に電源が供給されていません。点灯している場合、本体と本機の接続を確認してください。	8、9
	● 異常表示灯が点灯していませんか？ → 点灯している場合、本体あるいは本機に異常が発生しています。	25
	● 点検中表示灯が点滅していませんか？ → 本体側で点検モードの点検作業をしています。表示灯が消灯してから放送してください。	8、9
	● 放送階選択スイッチは押し、階別作動表示灯が点灯していますか？ → 選択された放送先は、該当する階別作動表示灯が緑色に点灯します。階別作動表示灯が消灯している場合、放送階選択スイッチを押してください。（階別作動表示灯が点灯します）	11、12
	● 放送中表示灯が点灯していますか？ → 本機より優先順位の高い機器が放送されている場合は、本機からの放送はできません。優先順位の設定状態はシステムによって異なります。放送中の機器については本体の液晶画面に表示されます。	8
異常表示灯が点灯している	● スイッチカバー内の異常表示灯が点灯していますか？ → 本機あるいは本体で異常が発生しています。どこの異常かを確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。	25
	● コンピューター制御スイッチを「切」にしていますか？ → 本機が正常動作しないときは、スイッチカバー内のコンピューター制御スイッチを「切」にすると、一時的な緊急対応として本体マイクで一斉放送を行うことができます。このときも異常表示灯が点灯します。「切」設定後、「入」に戻して正常に動作するか確認してください。問題が解決しない場合には、電源を再度立ち上げ直して正常に動作するか確認してください。	25 本体施工説明書

工事説明



警告

傷害防止のため、この機器は、取扱説明書にしたがって壁にしっかりと取り付ける必要があります。

工事は必ず販売店に依頼してください。

工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にし、本機に電源を供給する壁掛形非常用放送設備（以下、本体）の常用電源スイッチを「切」にし、また本体に接続した分電盤のブレーカーを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

付属品をご確認ください

工事を始める前に付属品をご確認ください。

マイクロホン（本体マイク用）..... 1個
型紙..... 1枚
ゴム足..... 4個

束線バンド..... 1本
グロメット..... 1個

設置上のご注意

設置工事は電気設備技術基準にしたがって実施してください。

本機は屋内専用です

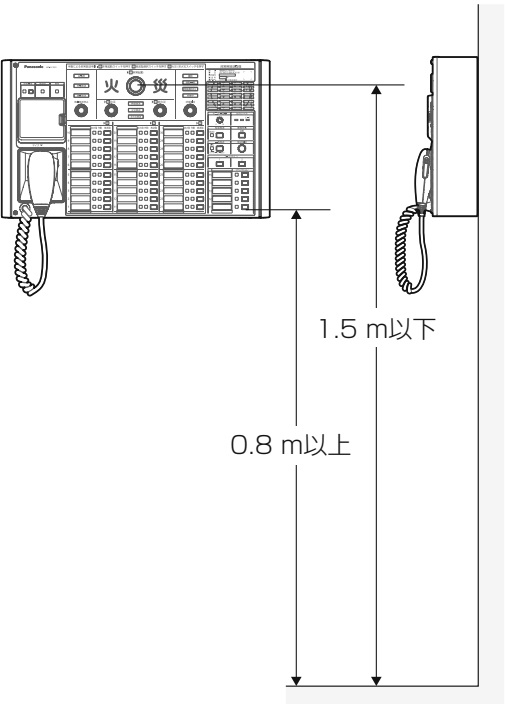
屋外での使用はできません。

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

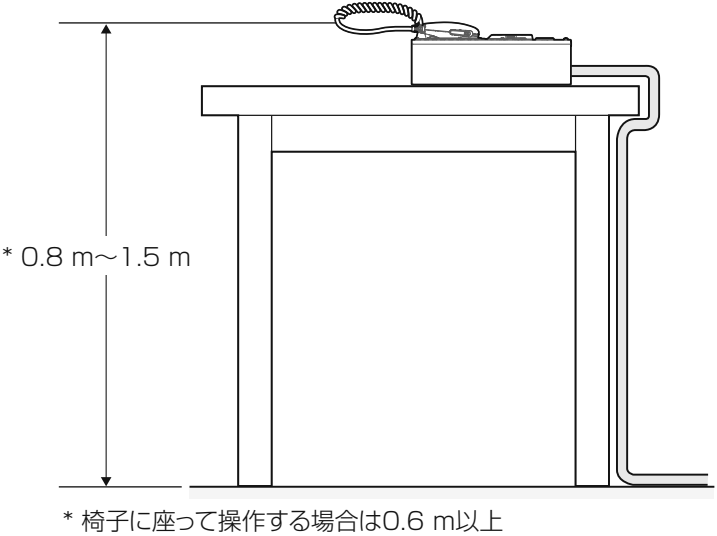
取り付け高さ

非常起動スイッチから操作スイッチ下部までが、床面から0.8 m（椅子に座って操作する場合は0.6 m）～1.5 mの範囲に収まるように取り付けてください。

壁掛け型で使用する場合



卓上型として使用する場合



工事説明

以下の場所には設置しないでください

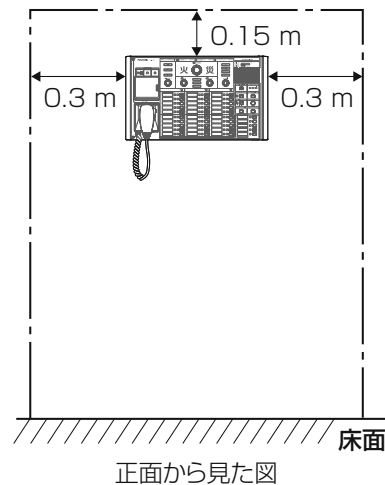
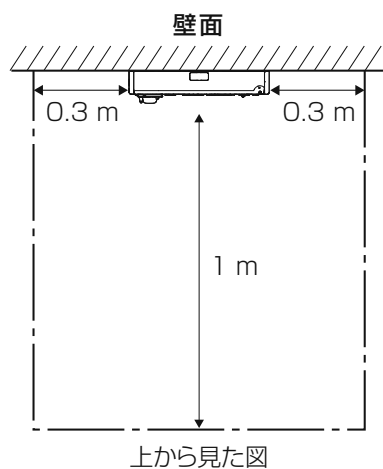
塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しないでください。機器の誤動作の原因となります。

取り付け壁面の強度

- 本機は 4.9 N/mm^2 (50 kgf/cm^2) 以上の荷重に耐えられるコンクリート壁面や20 mm以上の板壁面に取り付けてください。
- 化粧合板やボード製の壁面には取り付けしないでください。落下などでけがの原因になります。

周囲に障害物を置かない

下図の範囲内に障害物を置かないで、空間を確保してください。



静電気について

静電気による破損を防止するために、作業を始める前にパネルなどの金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

ケーブルの引き込みについて

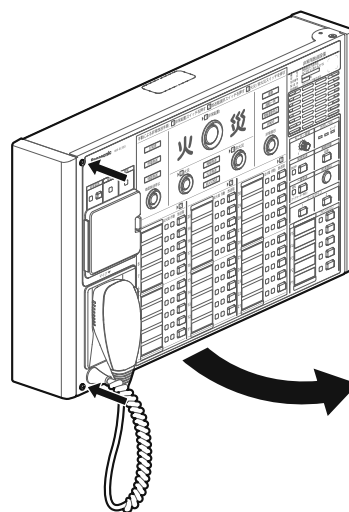
卓上型として使用する場合、本機に引き込むケーブルは上下面通線口からの通線を推奨します。消防用認定耐熱対形ケーブル（ペア線）の線径が太いため、底面側から入れるとケーブルで本機が浮き上がり、安定しません。

本体側で非常リモコンの台数設定を行う

- 非常リモコンを本体に接続するときは、本体で台数設定（書き込み）を行ってください。
- 設定値と接続台数が不一致の場合、非常リモコンに電源が投入されると、非常リモコンのモニタースピーカーから異常状態通知のブザー音が鳴ります。

設置のしかた

3. 操作パネルのねじを緩め、操作パネルを開く



4. 通線口を開ける

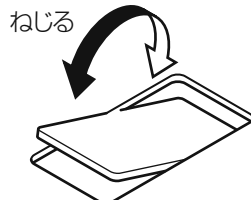
●後面から通線する場合

後面の通線口カバーを外します。

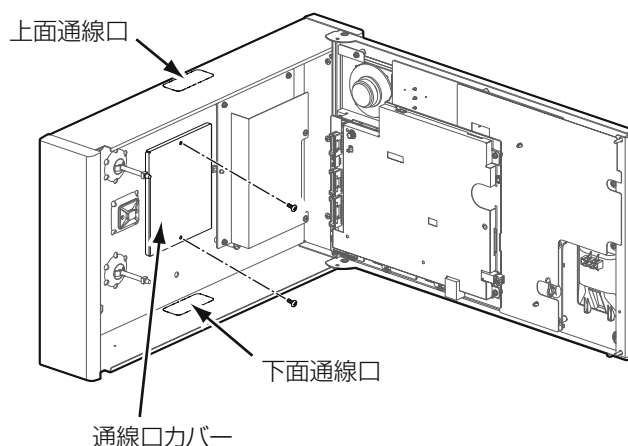
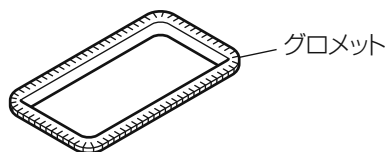
●上下面から通線する場合

上下面の通線口をペンチなどで両端を押して上下させ、ねじって外してください。

上下面の通線口はノック形状になっています。



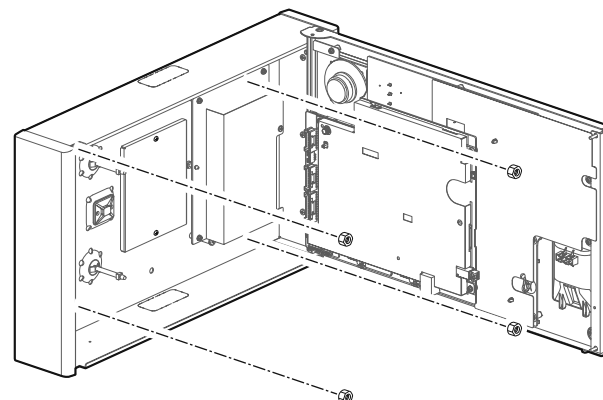
外した通線口の端面でケーブルを傷つけないように、付属のグロメットを端面に取り付けます。



5. 本機を壁面に取り付ける

壁面に打ち込んだアンカーボルトに本機の取り付け孔を掛けて乗せ、ナットで固定します。

めねじタイプのアンカーボルトまたはタッピングねじ、木ねじを使用したときは、上側2か所を仮止めして本機の取り付け孔を掛けて乗せ、そのあと本締めして固定します。

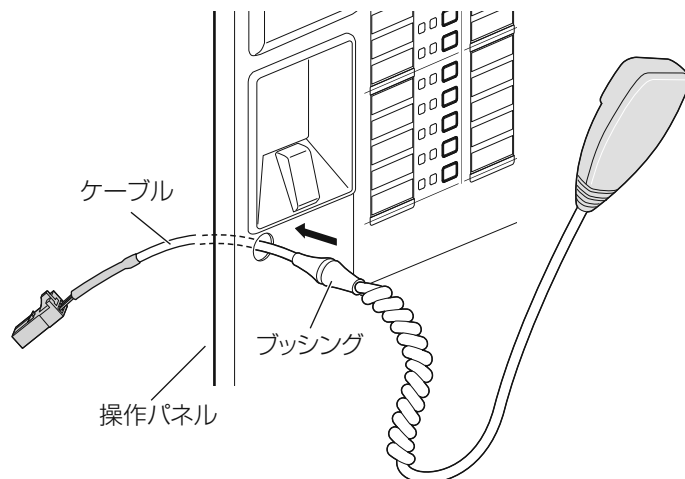


6. 操作パネルを閉じ、ねじを締める

締め付けトルク：0.4 N・m ～0.6 N・m
{4 kgf・cm～6 kgf・cm}

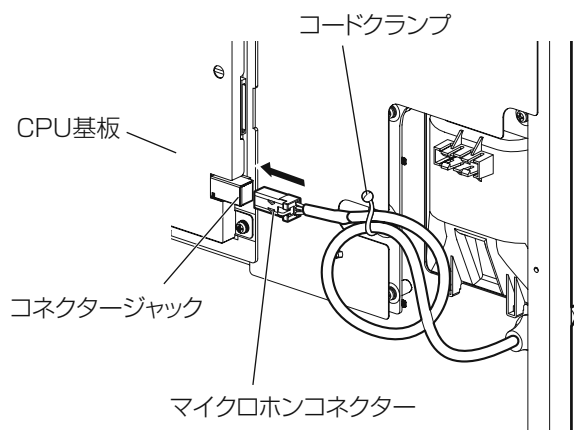
マイクロホンの接続

1. 本機に付属のマイクロホンを下図のように操作パネル孔に通し、ブッシングで固定する



2. マイクロホンのプラグを、CPU基板のマイクロホンジャックに接続する

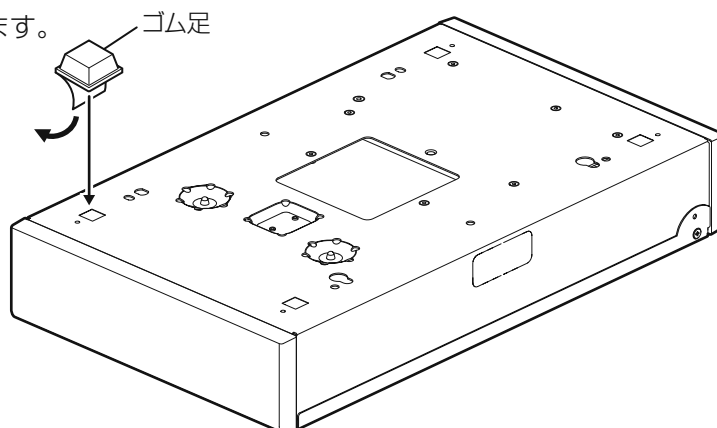
マイクロホンのコードを、コードクランプを通して固定します。



卓上に置く場合

■ ゴム足を取り付ける

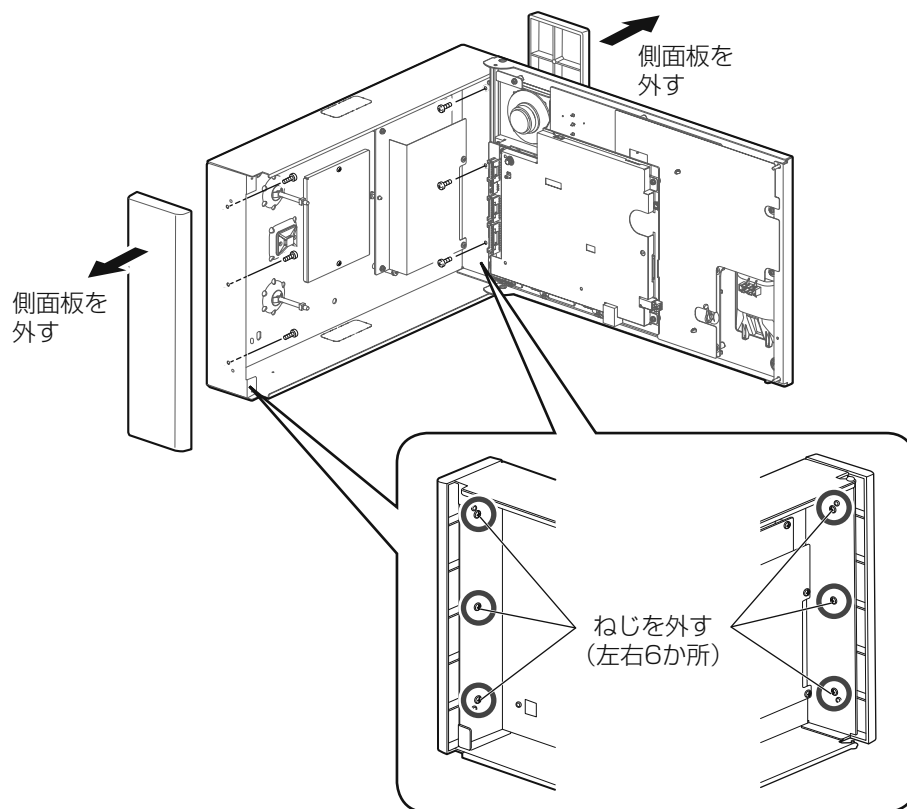
本機を裏返して、付属品のゴム足を凹部に取り付けます。



本機をラックに収納する場合

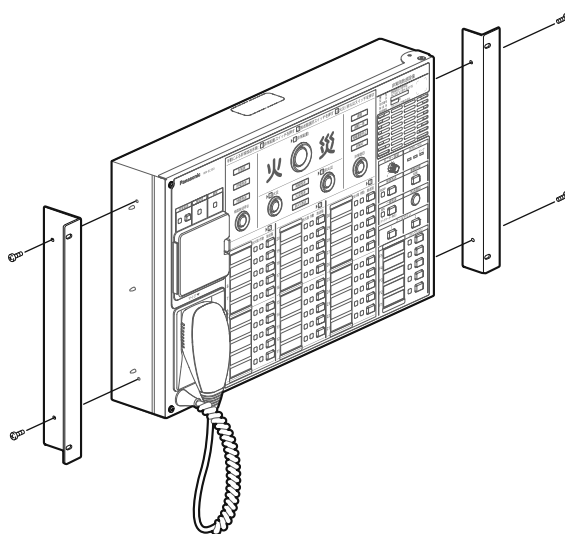
1. 左右の側面板を取り外す

操作パネルを開き、製品内部左右の側面にある側面板固定用のねじ6本を外し、側面板を取り外します。



2. ラックアングルを取り付ける

ラックアングルに付属されているねじ（M4）で製品外側からラックアングルを締結します。
推奨ラックアングル：YBSKG038（6U）



接続のしかた

線種と線径について

必ず消防用認定耐熱対形ケーブル（ペア線）を使用してください。

- 接続には、HIV電線またはこれと同等以上の耐熱性能を有する電線（金属管工事または金属ダクト工事）あるいは消防用認定耐熱電線（HP）の対よりケーブル（ペア線）を使用してください。
- 電源線のペア数は、接続距離による電圧降下での動作不具合を防止するために接続距離と線径により複数のペア数が必要になります。1ペア増やすと距離は2倍になります。

	1ペアでの接続可能距離（m）				
線径（mm）	φ0.65	φ0.9	φ1.2	φ1.6	φ2.0
信号線・音声線（50 Ω以下）	880	1000	1000	1000	1000
電源線（5 Ω以下）	88	170	300	530	840

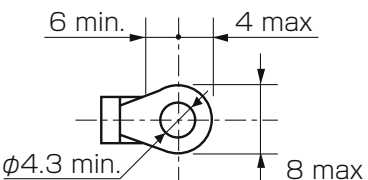
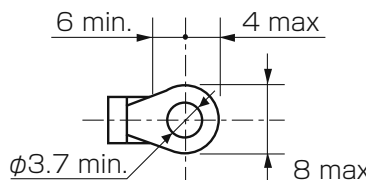
配線と結線について

電源線、信号線などのケーブルを後面側通線口または上下面の通線口から本機内に引き入れます。

1. 引き入れたケーブルを接続する

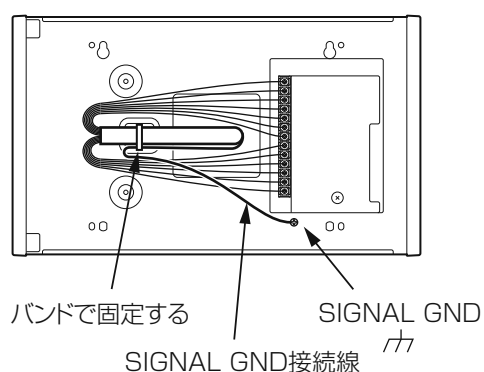
- 端子台にケーブルを結線します。
端子台に接続するケーブルの先端に丸端子を取り付けてください。

使用可能丸端子

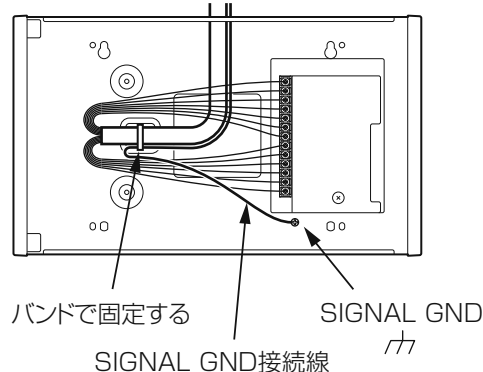
	アース線	端子台ケーブル
丸端外形		
JIS適合品番	RAV1.25-4 RAP1.25-4 RAV2-4 RAP2-4 RAV5.5-2 RAP5.5-2	RAV1.25-3.5 RAP1.25-3.5 RAV2-3.5 RAP2-3.5
締め付けトルク	0.97 N・m～0.99 N・m {9.7 kgf・cm～9.9 kgf・cm}	0.77 N・m～0.79 N・m {7.7 kgf・cm～7.9 kgf・cm}

- SIGNAL GND端子を安定した金属面に接続してください。
SIGNAL GND接続線の先端に丸端子を取り付けてください。

（後面から引き入れたとき）



（上面から引き入れたとき）



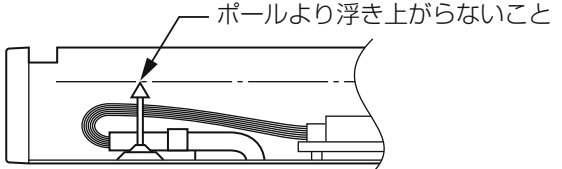
接続のしかた



- ・後面から通線を行う場合は、後面の通線口カバーを外します。上下面から通線を行う場合は、通線口を外します。(30ページ)

2. ケーブルを固定する

- ・端子台に結線したケーブルがケーブル引きまわし面に立つポールより浮き上がらないように、シャーシ面側に押し付けてください。
- ・付属の束線バンドでケーブルを固定します。



本体との接続

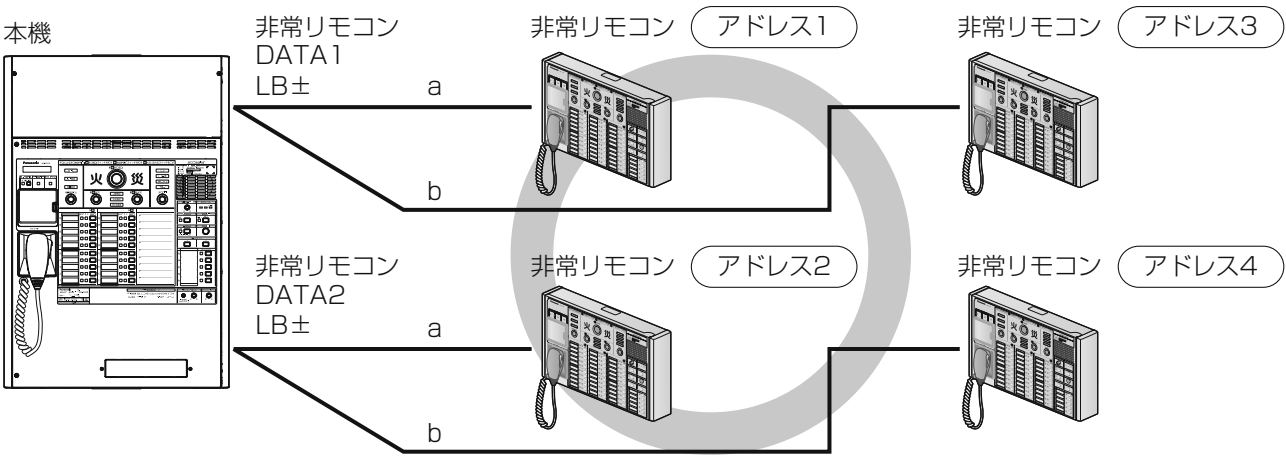
- ・本体に非常リモコンを接続するときは、本体側の接続端子と非常リモコンの接続端子を接続します。
- ・接続には、HIV電線またはこれと同等以上の耐熱性能を有する電線（金属管工事または金属ダクト工事）あるいは消防用認定耐熱電線（HP）の対よりケーブル（ペア線）を使用してください。
- ・接続できる台数は、最大4台までです。
- ・データ線の接続距離は、各データ線の総延長距離が1000 mまでです。



- ・本体に非常リモコンを接続する場合は非常リモコンのアドレス設定が必要です。
- ・非常リモコンの接続は必ず非常リモコンのアドレスに応じたデータLB端子に接続してください。

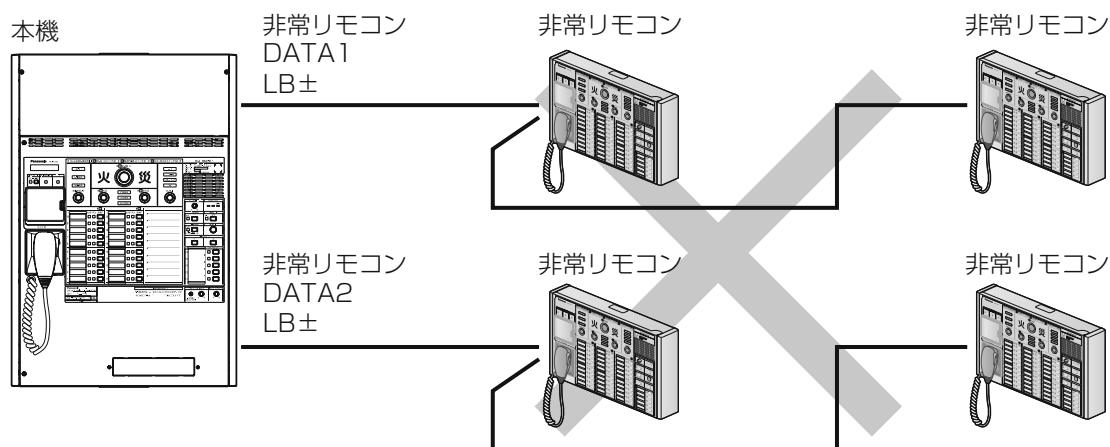
データ線接続端子	非常リモコン接続台数			
	1台	2台	3台	4台
DATA1 LB±	アドレス1	アドレス1	アドレス1 アドレス3	アドレス1 アドレス3
DATA2 LB±		アドレス2	アドレス2	アドレス2 アドレス4

<良い接続例>



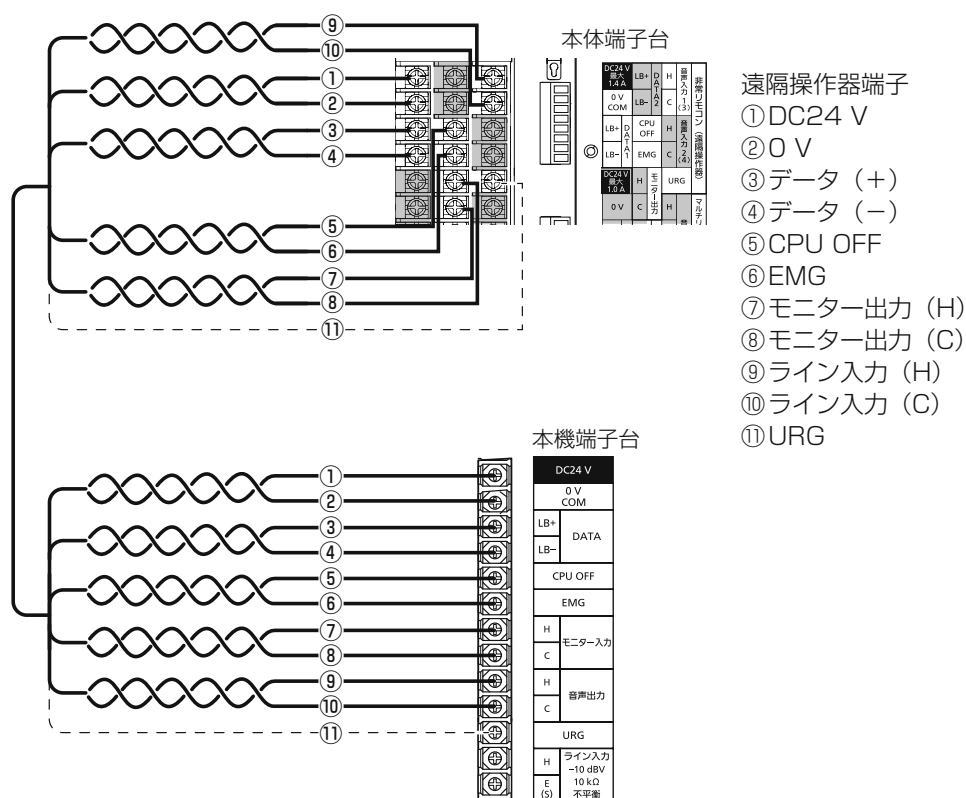
接続可能台数：最大4台
接続可能距離 = $a + b \leq 1000 \text{ m}$

<悪い接続例>



非常リモコンを複数台接続する場合は、非常リモコンでの分岐はできません。

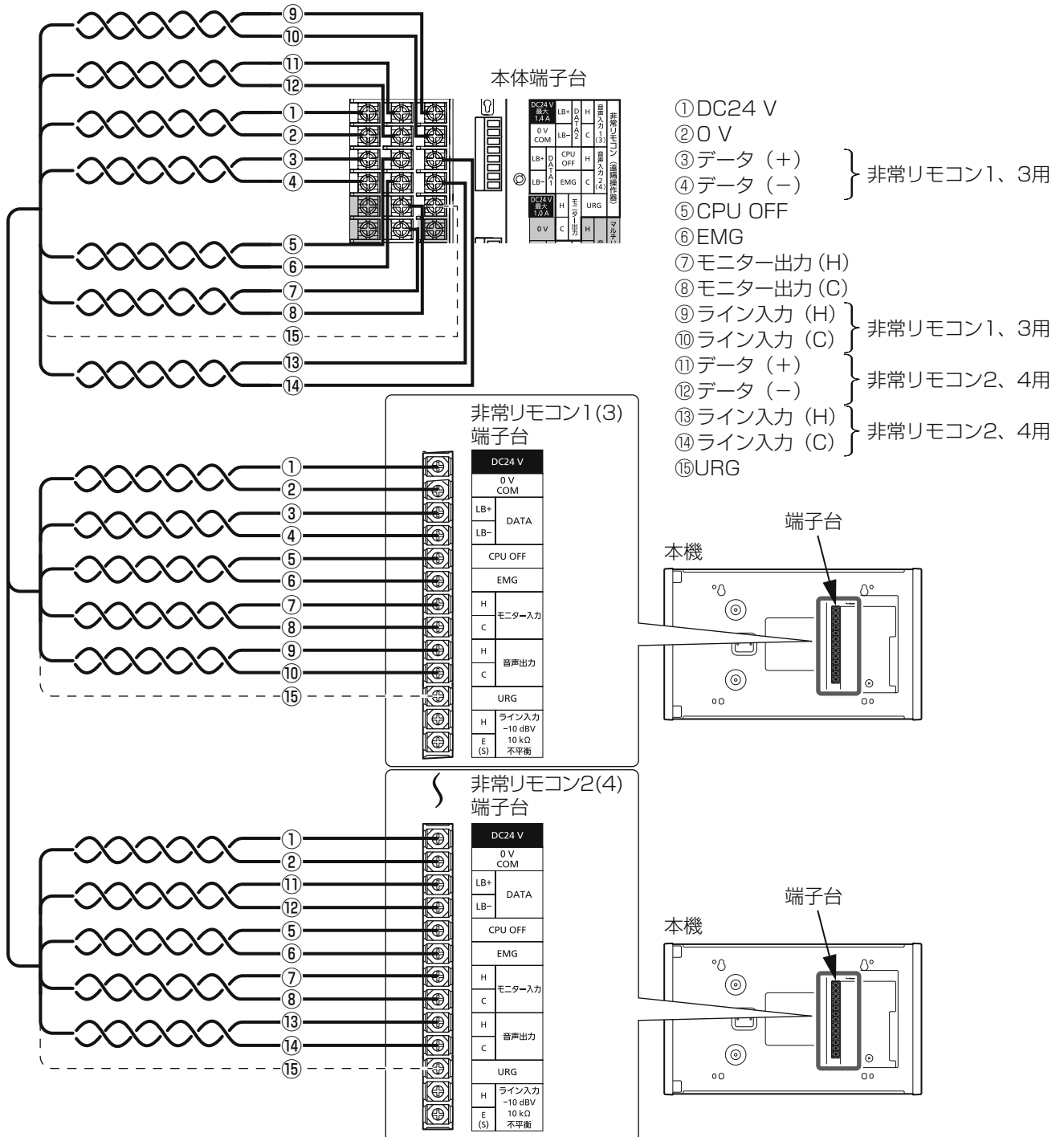
■ 本体との接続のしかた



- ・非常リモコン接続時は、本体のシステム設定で非常リモコンの接続台数を設定してください。（本体の施工説明書をお読みください。）
- ・非常リモコンから停電時に緊急放送、業務放送を行う場合は「URG」を接続してください。
- ・非常リモコンのシステム設定を行っていない場合は、非常リモコンからブザー音が鳴ります。このブザー音は非常リモコンの放送階選択スイッチのいずれかを押すと止まります。
- ・本体から非常リモコンまでの最大延長距離は、使用する電源線の線径により異なります。33ページを参照して線径・ペア数を決定してください。

■ 本体に非常リモコンを複数台接続する場合

- 本体のDATA1端子LB+、LB-には非常リモコン1、3のLB+、LB-を接続します。
- 本体のDATA2端子LB+、LB-には非常リモコン2、4のLB+、LB-を接続します。
- 本体の音声入力1（3）には非常リモコン1、3の音声出力を接続します。
- 本体の音声入力2（4）には非常リモコン2、4の音声出力を接続します。
- それ以外は同じ名称の端子どうしを接続します。



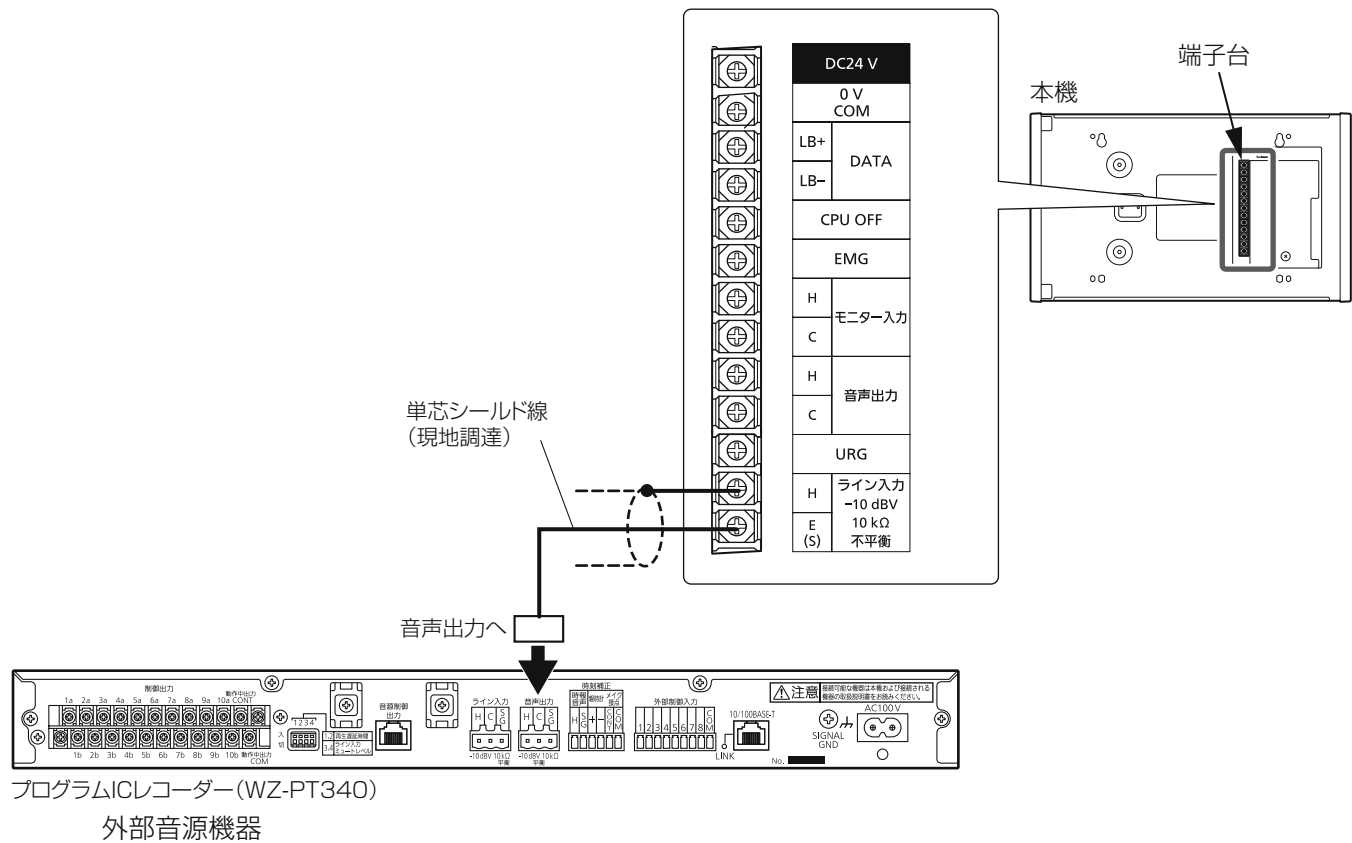
- 非常リモコンごとにアドレス設定を行ってください。
- 同一アドレスの重複設定はできません。



- 非常リモコンから停電時に緊急放送、業務放送を行う場合は「URG」を接続してください。

ライン入力の接続

本機からデジタルICプレーヤー等の外部音源機器の放送を行うときは、外部音源機器の音声出力を本機のライン入力に接続します。

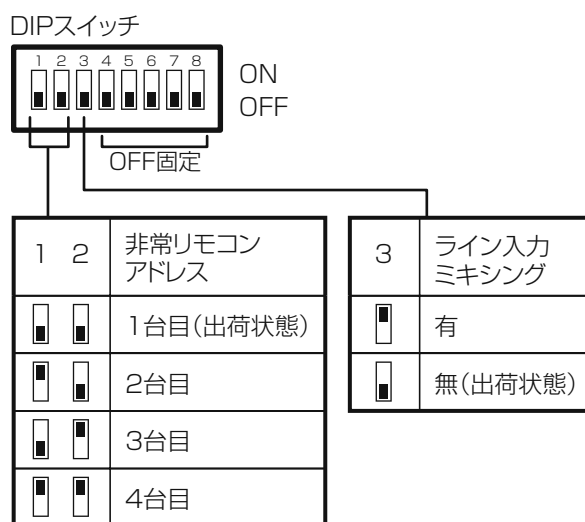


設定・動作確認

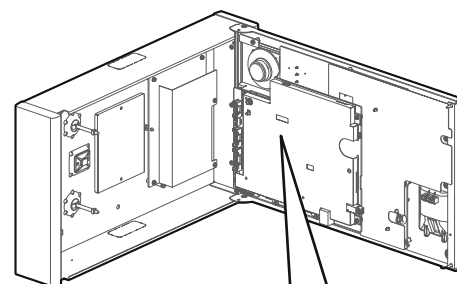
内部の設定

■ ディップスイッチの設定

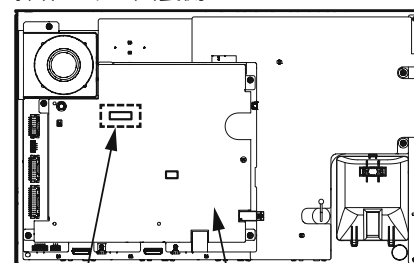
本機のアドレスと本体マイクとライン入力のミキシング「有」「無」を設定します。



*ヌケやダブリのないようにします。



操作パネル面裏側



DIPスイッチ

CPU基板

■ 音量調節

● 非常／業務放送兼用マイク（本体マイク）音量調節

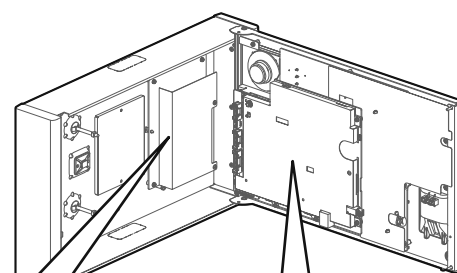
非常／業務放送兼用マイク（本体マイク）の音量を調節します。

※ 本体マイクの音量調節は非常放送時は無効になります。

● ライン入力の調節

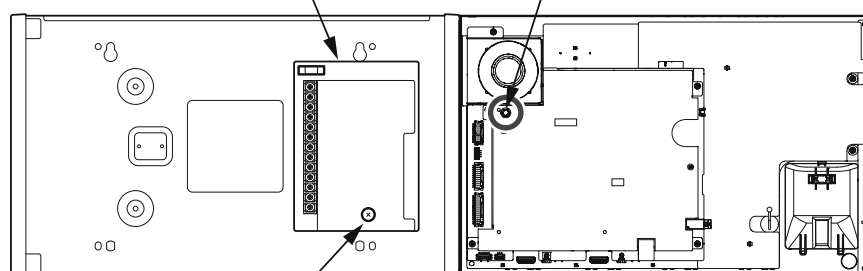
矢印方向で音量が大きくなります。（出荷状態：最小）

端子台表示シートをめくり、基板上のライン入力音量を調節します。



端子基板

マイク音量調節つまみ



ライン入力
音量調節(VR1)



接続点検と電源投入

■ 接続・配線の点検

すべての接続が終わり、非常用放送設備本体側の常用電源スイッチを「入」にする前に、本機の配線・接続、各ユニット間のケーブル接続および外部配線を再度確認してください。

■ 電源の投入と点検

1. 本体の常用電源スイッチを「入」にする

本体の書き込み設定で非常リモコンの台数設定を接続台数と一致させてください。（※出荷時の台数設定は0台です）（28ページ）



- ・ 台数設定が未設定や接続台数と設定が不一致の場合、非常リモコンに電源が投入されると、非常リモコンのモニタースピーカーから異常表示のブザー音が鳴ります。このときは、任意の放送階選択スイッチを押してブザー音を止め、本体の書き込み設定で非常リモコンの台数設定を変更してください。

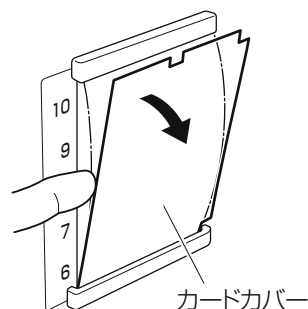
2. 本機の主電源表示灯が点灯していることを確認する

表示カードの取り付け

放送階選択スイッチ表示部、ファンクションスイッチ表示部には、割り当てた放送先などの名称を記入する表示カードが操作パネルに付いています。表示カードへの記入は、以下の手順で行います。

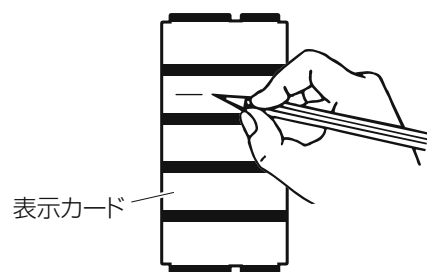
1. 表示カードの上に取り付けられているカードカバー中央部に爪をかけ、持ち上げながら手前に引いて、カードカバーを外す

2. 表示カードを取り外す



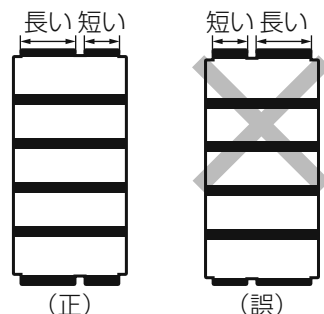
3. 割り当てた放送先の名称を、表示カードに記入する

枠のない側を右（スイッチ側）に向けて、記入してください。
市販のラベルライターで作成して貼り付けるときは、高さ9 mm以下、長さ30 mm以下のラベルを使用してください。



4. 記入が終わったら、表示カードとカードカバーを元どおり本機に取り付ける

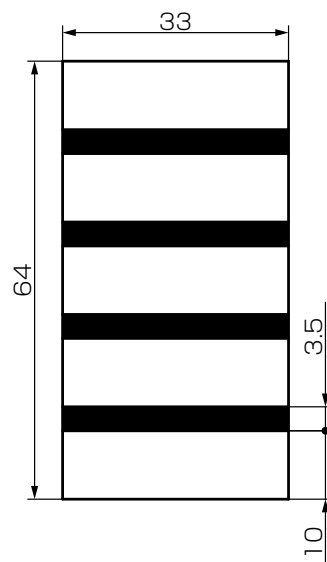
表示カードの向きが逆にならないよう注意してください。



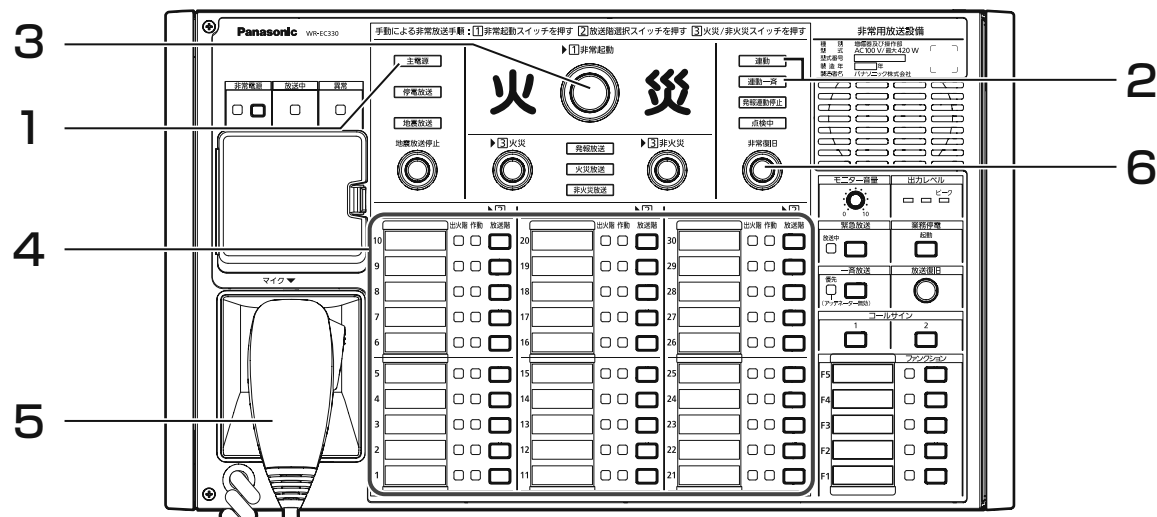
●表示カードを作成する場合

右図をもとに表示カードを作成します。

厚さ0.2 mm以下の紙を用意し、印刷後に切り取りご使用ください。



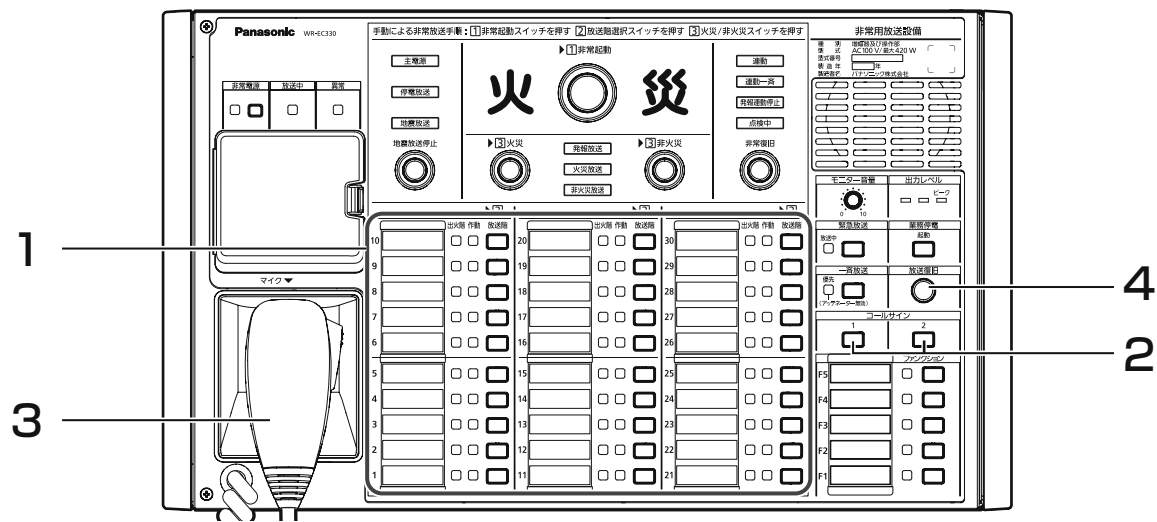
非常放送の動作確認

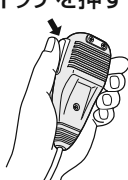


手順	操作	確認項目	チェック
1	—	・ 主電源表示灯が点灯	☐
2	—	・ 連動表示灯、または連動一斉表示灯が点灯	☐
3	非常起動スイッチを押す	・ 火災表示灯が点灯 ・ モニタースピーカーより操作指示音声（「放送階選択スイッチを押してください」）が流れる	☐
4	放送階選択スイッチを押す	・ 押したスイッチの作動表示灯が点灯 ・ 該当のスピーカーから発報放送または火災放送が流れる（※）	☐
5	マイクを取り、スイッチを押す マイクスイッチを押してマイクに向かって話す	・ 発報放送、または火災放送が中断しマイク放送が流れる ・ マイク放送終了後 発報放送中 → 無音 火災放送中 → シグナル音になる	☐
6	非常復旧スイッチを押す	・ 放送が終了 ・ 火災表示灯、作動表示灯が消灯	☐

※ 発報放送中、火災放送中はそれぞれの放送の発報放送、火災放送表示灯が点灯または点滅します。

業務放送の動作確認



手順	操作	確認項目	チェック
1	放送階選択スイッチを押す	・ 押したスイッチの作動表示灯が点灯	☐
2	コールサインスイッチを押す	・ 放送階選択スイッチで選択したスピーカーからコールサイン音が流れる	☐
3	マイクを取り、 マイクスイッチ を押してマイク に向かって話す 	・ マイク放送が流れる	☐
4	放送復旧スイッチを押す	・ 放送が終了 ・ 作動表示灯が消灯	☐

保守点検

自動点検について

本機は、非常用放送設備本体側で行った自動点検の結果を、操作パネルとスイッチカバー内の異常表示灯で表示します。
操作パネルの異常表示灯が点灯している場合は、スイッチカバー内の異常表示灯を確認します。

■ コンピューターの自動点検

点検項目	異常表示灯	点検内容	点検方法 (コンピューターが自動的に行います)
本体マイク異常	マイク異常	本体マイクの断線を監視	常時自動的に監視
スピーカー回線短絡	回線短絡	スピーカー回線の短絡を検出	短絡状態のスピーカー回線で放送を行おうとしたときに検出
蓄電池異常	蓄電池異常	蓄電池が正常電圧であるかどうかを判定	24時間おきに自動的に点検
通信異常	通信異常	本体と非常リモコン間の通信を点検	常時自動的に点検
パワーアンプ異常	PA異常	電力増幅ユニットの異常を監視	電力増幅ユニットのヒューズ断、温度異常を常時監視します。

■ 異常発生時の動作と復旧方法

点検項目	異常発生時の表示とブザー音			復旧方法
	操作パネル表示灯	スイッチカバー内表示灯	ブザー音	
蓄電池異常	異常表示灯：点灯	蓄電池異常表示灯：点灯	鳴動	本体側の蓄電池を再度チェックして、蓄電池表示灯が赤に点灯している場合は、蓄電池を交換してください。
通信異常	異常表示灯：点灯	通信異常表示灯：点灯	鳴動	非常リモコンから再度放送を行い通信異常が正常に戻るか確認してください。
スピーカー回線短絡	異常表示灯：点灯	回線短絡表示灯：点灯	なし	本体側にて短絡している回線を再度確認してください。通常状態または業務放送で非常復旧スイッチを押して、異常表示を復旧してください。
本体マイク異常	異常表示灯：点灯	マイク異常表示灯：点灯	なし	本機の本体マイクが確実に接続されているか確認してください。
PA異常	異常表示灯：点灯	PA異常表示灯：点灯	なし	本体側にて電力増幅ユニット異常の詳細内容を確認してください。

* ブザー音は、操作パネルの任意の放送階選択スイッチを押すと鳴動が止まります。
(異常表示灯は、点灯したままです)

電源の点検

■ 主電源の点検

操作パネルの主電源表示灯が点灯していることを確認する。
非常用放送設備側から供給されるDC24 V電源が動作下限電圧以下のときは消灯します。
停電時は消灯します。

■ 非常電源電圧の点検

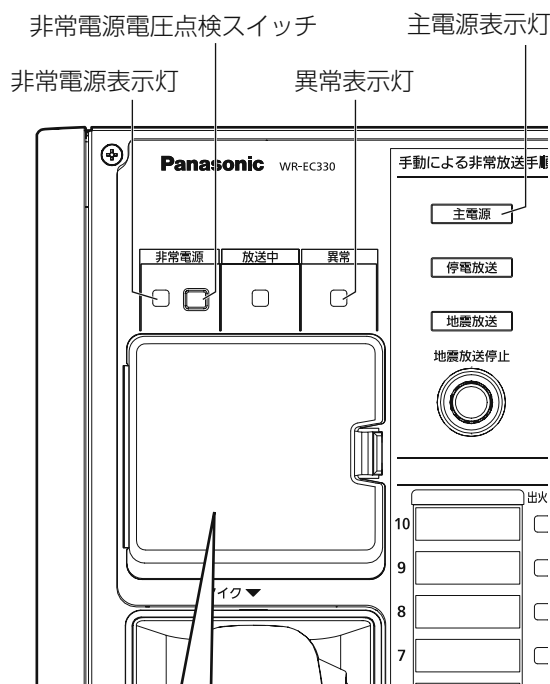
非常電源電圧点検スイッチを押して、非常電源電圧を確認する。

通常は消灯しています。

非常電源電圧が正常のときは点灯します。

動作電圧以下のときは点灯しません。

点灯しない場合、非常用放送設備内蔵の蓄電池が充電されていないか、蓄電池が寿命の可能性あります。(蓄電池の寿命は約4年です)



異常時の表示について

- コンピューター異常またはその他の異常が発生したときは、操作パネル左上の異常表示灯が点灯します。
- その他の異常内容は、スイッチカバー内の症状別異常表示灯の点灯を確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。
- 本機または本体のコンピューター制御スイッチを「切」にした場合も異常表示灯が点灯します。

スイッチカバー内

マイク異常表示灯

回線短絡表示灯

マイク異常 回線短絡 蓄電池異常 通電異常 PA異常

蓄電池異常表示灯

通信異常表示灯

PA異常表示灯

電源	DC24 V（※壁掛形非常用放送設備より供給）
消費電流	WR-EC310：300 mA WR-EC320：325 mA WR-EC330：350 mA
使用温度範囲	0℃～+45℃
電源監視	
主電源表示	本機に電源供給時：緑色点灯
非常電源表示	通常：消灯 非常電源電圧点検スイッチ押下時：非常電源の出力電圧を表示 正常：点灯（緑色） 異常：消灯
非常系統数	WR-EC310：10系統 WR-EC320：20系統 WR-EC330：30系統
周波数特性	50 Hz～15 kHz ー1 dB±3 dB 1 kHz基準
ひずみ率	0.5 %以下（1 kHz 基準）
S/N	65 dB以上（本体マイク 50 dB以上）
本体マイク	非常／業務放送兼用（業務放送時音量調節可能）
ライン入力	ー10 dBV 10 kΩ 不平衡（入力レベル調節可能（本機内部））
操作スイッチ	非常起動、非常復旧、火災放送、非火災放送、緊急放送、一斉放送（アッテネーター有効／無効 切り替え）、緊急地震放送停止、放送階選択、放送復旧、業務停電起動、ファンクションスイッチ1～5、コールサイン1～2（7種類の内蔵音源から選択が可能）、非常電源電圧点検
表示灯	火災、発報放送、火災放送、非火災放送、出火階、階別作動、地震放送、連動、連動一斉、発報連動停止、緊急放送表示、優先一斉放送、ファンクションスイッチ作動、放送中、停電放送、点検中、異常、異常表示、操作指示
非常リモコン通信・制御	LB+、LBー、CPU OFF、EMG、URG
非常リモコン音声入出力	音声出力、モニター入力
モニター	
出力レベルメーター	3ポイント（ピーク：0 dB、シグナル1：ー6 dB、シグナル2：ー40 dB）
モニタースピーカー	出力0.3 W 8 Ω 業務放送時モニター音量調節付き（操作パネル面） ハウリング防止機能付
寸法	幅450 mm 高さ265 mm 奥行き75 mm
重量	約4 kg
仕上げ	パネル：AVライトグレー半艶塗装（マンセルN8近似色 日塗工 CN-80近似色）
カラーユニバーサルデザイン※	対応

※ カラーユニバーサルデザイン（CUD）
色の見えかたが異なる（先天的な色弱、白内障、緑内障など）人にも情報がきちんと伝わるよう、色使いに配慮したデザインを言います。
本機はカラーユニバーサルデザインに配慮して作られており、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構の認証を取得しています。

必要なとき

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名

電 話 () -

お買い上げ日 年 月 日

修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(26ページ)でご確認のあと、直らないときは、まず電源を切って、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名

壁掛形非常リモコン

●品 番

WR-EC310, WR-EC320, WR-EC330

●故障の状況

できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

高所設置製品に関するお願い

本機を高所に設置してお使いの場合、落下によるけがや事故を未然に防止するため、下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？		直ちに使用を中止してください
● 本機を使用せずに放置している。	▶	事故防止のため、必ず販売店または施工業者に 撤去 を依頼してください。
● 取付ねじがゆるんだり、抜けたりしている。 ● 取付部がぐらぐらしたり、傾いたりしている。 ● 本機および取付部に破損や著しいさびがある。	▶	事故防止のため、必ず販売店または施工業者に 点検 を依頼してください。

長期間使用に関するお願い

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？		直ちに使用を中止してください
● 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がある。 ● 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。 ● 製品に触るとビリビリと電気を感じる。 ● 電源を入れても、音が出てこない。 ● その他の異常・故障がある。	▶	故障や事故防止のため、 電源を切り 、必ず販売店または施工業者に 点検 や 撤去 を依頼してください。

必要なとき

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バ ナ ハ ヨ イ ワ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://panasonic.biz/cns/cs/cntctus/>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

© Panasonic Corporation 2020

PUQX1009ZA
FSe0920-0
Printed in China